

平成14年度文部科学省初等中等教育局国際教育課委嘱研究
「英語教育に関する研究」報告書

英語教員が備えておくべき英語力の目標値についての研究

第3研究グループ

- リーダー 石田 雅近（清泉女子大学）
- サブリーダー 緑川日出子（昭和女子大学）
- 久村 研（田園調布学園大学短期大学部）
- 酒井 志延（千葉商科大学）
- 笹島 茂（埼玉医科大学）

平成15年8月31日

研究計画

研究の趣旨

「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」において、英語教員が備えておくべき英語力の目標値として、英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点程度が設定されている。これらを踏まえて本研究では、英語教員として求められている英語力及び英語教授力に照らして、この達成目標が妥当かどうかを分析する。併せて、英検、TOEFL、TOEIC 間の点数互換の妥当性についても具体的に検証し、さらに、日本で受験可能な外部試験についても比較し、その特性を明らかにした。

研究の内容及び方法

1. 英検準 1 級、TOEFL550 点、TOEIC730 点の妥当性に関する研究を行った。
 - 1) 英検準 1 級合格の中学校及び高校の現職英語教員を対象として、TOEFL(ITP)及び TOEIC(IP)の試験を実施し、それらの試験結果から、設定された目標値の互換性について、統計的に検証した。
 - 2) 上記 1)の英語教員を対象として、実際の授業における英語使用の実態を、アンケート及びインタビューによって調査した。
2. 英検、TOEFL、TOEIC 及びその他の試験(ケンブリッジ英検 FCE レベル、IELTS、国連英検等)に関する研究を行った。各試験の目標、形式、内容、評価法、測定の基準等を相互に比較し、各試験の特性を明らかにした。

(この研究計画は、平成 14 年 9 月に文部科学省初等中等教育局国際教育課に提出した文書である)

目 次

研究結果概要

研究の背景

研究の方法と内容

英検準 1 級 , TOEFL , TOEIC の目標値の妥当性検証

各種試験の比較調査

- 1 . 語彙レベル比較
- 2 . 各試験問題の形態 , リーダビリティ , トピック等の比較
- 3 . 日本で受験可能な英語能力試験の特徴に関する調査

英語力と英語使用に関する調査

- 1 . 教室内における英語使用の意識
- 2 . 英語能力試験受験の動機
- 3 . 英語力の基準設定に関する意見
- 4 . 備えておくべき資質に関する意見
- 5 . シンガポール , 香港等における海外研修に対する意見

補遺

研究結果概要

1. 設定された目標値について

- 母数が限られ、また点数のバラツキが大きいので、断定することはできないものの、この調査対象者に関する限り、英検準1級に相当する得点は、最低限でも TOEFL 500 点、TOEIC 700 点であると推定できる。

(根拠) 英検準1級の合格者58名を対象とした TOEFL(ITP)及び TOEIC(IP)の結果、設定されている目標値の TOEFL550 点及び TOEIC730 点を収めた教員は 32.76%に過ぎない。それに対し、TOEFL500 点以上及び TOEIC700 点以上の成績を収めた教員は 82.76%であった。

2. 各種試験の比較調査について

1) 英検準1級、TOEFL、TOEIC の試験問題について

- 3種の能力試験はそれぞれ特質が異なるため、教員の備えるべき目標値としてこれらの試験を用いる場合は、各試験の特性を十全に理解することが望ましい。

(根拠) 英検準1級合格の教員を被験者として実施した TOEFL、TOEIC の試験結果から、英検準1級合格者の中でも、TOEFL の最高 640 点・最低 467 点、TOEIC の最高 965 点、最低 575 点と得点に大きな幅があることが判明した。また、試験問題の分析から明らかになった三つの試験の主な相違点は、次のとおりであった。

- ・ 語彙レベルの面では英検準1級と TOEIC は、ほぼ同レベルの試験と考えられる。ただし、一万語レベル以上が英検準1級および TOEIC では約 4% であるのに対して、TOEFL では、約 14% である。
- ・ 読解問題では、TOEIC は他の 2 試験と比べ、短い文書を多数出題する。準1級が総語数において他の 2 試験と比べ若干多い。
- ・ リスニングの試験時間に大きな差があることと併せ、3つの試験に共通しておかれている「会話」の一部および「モノローグ」の語数において、TOEFL の一つの課題文は、TOEIC の約 3～4 倍、準1級の約 1.5 倍の長さがある。
- ・ 出題問題のトピックに関しては、TOEFL はアカデミックな話題に、TOEIC はビジネス関係の話題にかなり比重が置かれている。英検準1級は特定な話題に偏る傾向はみられない。

以上から、英検、TOEFL、TOEIC にはそれぞれの特性があり、教員からみれば、興味・関心・得意分野によってテストに対する適性が異なるであろう。したがって、一つの試験に限定して、教員評価や研修を行うべきでないことは明らかである。

2) 英検, TOEFL, TOEIC 及びその他の試験について

- 「教員に特化した英語能力試験」の開発が望まれる。

(根拠) 英語教員が日本において受験可能な「英語能力試験」の数は少ない。各試験にはそれぞれの特色があり, 同一基準を用いて優劣をつけるのは困難である。ただ, 英語教員が備えておくべきコミュニケーション能力を総合的に計る試験はない。廉価で簡便に受験でき, かつ信頼性の高い「教員に特化した英語能力試験」の開発が望まれる。

3. 英語力と英語使用に関する調査について

1) 教室での英語使用について

- 教室での英語使用度を高めるために, 中学校では, スモールトークを中心とした「日常的に遭遇する場面で使われる言語能力」の訓練, 高校では「復習」, 「教授」, 「まとめ」を英語を交えながら指導できるスキルを養成する研修の機会を増やすべきである。

(根拠) 今回の調査から, 教室内の英語使用は, 教育段階, 学年, 科目, 活動の場面等によって差異が見られる。全般的に高校より, 中学の方で英語が多く用いられているが, 総じて使用度は高いとは言えない。授業中の活動が英語によって効果的に行えるような英語力, 英語教授力, 指導力の強化を計ることが求められる。英語を使える日本人を育成するためには, 中学校では, スモールトークを中心とした「日常的に遭遇する場面で使われる言語能力」の訓練, 高校では「復習」, 「教授」, 「まとめ」を英語を交えながら指導できるスキルを養成する研修の機会を持つことが教室での英語使用度を高めるために効果があると考えられる。

2) 英語能力試験, 英語力の設定基準, 教員が備えておくべき資質・能力, 海外の研修先に関する調査について

- 達成可能な努力目標値の設定は, 教員の英語力の維持向上や自己研鑽の動機づけに有効に働く。
- 英検準1級は決して高い目標値とは言えない。
- 英語力以外に, 英語教授力を養成するための研修を教育研修センター等で定期的 to 実施すべきである。その際, 教員が参加しやすい環境を整備する必要がある。
- 英語力以外の「英語教授力」の枠組みを構築すべきである。たとえば「授業の場面で求められる力」, 「授業の準備・終了段階で求められる力」, 「英語教授に必要な知識・教養」等に分類して, その内容を具体的に明示する必要がある。
- 海外での研修候補地として, 英語を母語とする国だけではなく, シンガポール, 香港等の教育機関を積極的に検討すべきである。

英語教員が備えておくべき英語力の目標値についての研究

研究の背景

平成 13 年度に我々英語教員研修研究会が実施した「英語教員が備えるべき望ましい英語力」に関する全国の中学校及び高校現職英語教員対象の調査において、中高の教員の半数以上が「英検準 1 級」を支持するという結果を得た。この全国調査結果は、平成 14 年 7 月文部科学省が発表した『「英語が使える日本人」の育成のための戦略構想』に反映され、英語の教員が持つべき英語力の目標値として、英検準 1 級、TOEFL 550、TOEIC 730 が発表された。同年 9 月に、我々の研究会は、「目標値の妥当性に関する研究」の委嘱を文部科学省から受けた。

研究の内容と方法

準 1 級、TOEFL、TOEIC の目標値の妥当性検証

方法：英検準 1 級合格者に TOEFL、TOEIC テスト受験を依頼

各種試験の比較調査

方法(1)：英検、TOEFL、TOEIC の出題問題分析

語彙・トピック・リーダビリティ・出題形式・その他

方法(2)：日本で受験可能な外部試験の特徴に関する調査

英語力と英語使用に関する調査

方法：英検準 1 級合格者を対象にアンケート・面接調査を実施

研究内容として上記 ~ を設定し、それぞれ別個の調査方法を用いて研究を進めた。ただし、と の「方法」にある「英検準 1 級合格者」は、同一の教員である。

準 1 級 , TOEFL , TOEIC の目標値の妥当性検証

「研究の背景」で述べたとおり , 文科省が言及している 3 つの能力試験のうち , 半数以上が支持しているものは英検準 1 級である。このことから、今回は英検準 1 級をベースに研究を進めることとし、過去 5 年間に於いて、英検準 1 級に合格した関東地区に居住する英語科現職教員 58 人 (中学 21 人 , 高校 35 人 , 中高一貫校 2 人) に依頼し、平成 14 年度の冬季休業中に、TOEFL(ITP)と TOEIC(IP)の両方を受験してもらうこととした。また、すでに TOEFL や TOEIC を受験したことがある教員には、その該当の試験受験を免除し、スコアのコピーを提出してもらった。被験者の数が限られているとはいえ、全員が準 1 級合格者であるから、この調査によって、2 つの能力試験の相関関係やスコアの妥当性を検証すれば、かなり信頼性の高い結果を得ることができる。一方、同じ被験者全員を対象に、英語力と授業における英語使用に関するアンケートとインタビュー調査を実施したが、この調査結果に関しては、で詳述する。

1 . TOEFL と TOEIC の試験結果

1) 相関検定 : Pearson $r=0.765$

2) スコア : TOEFL : 最高 640 点 ~ 最低 467 点 TOEIC : 最高 965 点 ~ 最低 575 点

3) 得点分布 : 表 1 参照

英検準 1 級合格の英語教員の TOEFL と TOEIC のスコアで、どのような分布を示すのかを調べるために、X 軸を TOEFL のスコア、Y 軸を TOEIC のスコアとしたグラフを作成し、80%以上の受験生が入る領域を捜した (次ページ表 1 参照)。

英語研究者や教育学者が英語教員の英語力として、しばしば言及する TOEFL600 点以上 (TOEIC810 点以上) の領域に該当するのはわずか 5 人 (8.62%) だけであった。また、今回文科省が提案した目標値の領域 (TOEFL : 550 以上 , TOEIC : 730

以上)に該当する被験者も、累計で19人(32.76%)にすぎなかった。そこで、

表1 得点分布

TOEFL-TOEIC	人数	累計人数	累計(%)
600-810	5	5	8.62
550-730	14	19	32.76
530-720	13	32	55.17
515-710	10	42	72.41
500-700	6	48	82.76
467-575	10	58	100.00

80%以上の被験者が入る領域を探してみると、TOEFL 500以上、TOEIC 700点以上が該当した。本調査結果から見る限り、英検準1級に相当する得点は、最低限でもTOEFL 500点、TOEIC700点程度であると推定できる。ただ、目標値という表現は、それを達成

したら、それでいいという意識を与えかねない。英語教員の英語力向上を望む観点からは、「英検準1級、TOEFL 500点、TOEIC 700点」は、スレシュホールド・レベル(閾値)として設定することが望ましい。

4) 担当別平均点

表2 担当別平均点

担当	人数	TOEFL	TOEIC	合計
中1	15	516.27	775.33	1291.60
中2	13	526.92	755.77	1282.69
中3	9	526.00	790.56	1316.56
英	14	547.21	809.29	1356.50
英	15	559.47	835.00	1394.47
OC	16	552.13	834.69	1386.81
R	10	541.60	828.50	1370.10
W	10	560.40	858.50	1418.90

担当学年と科目担当別に受験者を分類し、得点平均を比較したものが表2である。同一の受験者が中1と中2を担当している場合、その受験者のスコアは中1と中2の両方でカウントした。受験者数が少ないので、この結果から一般化できないが、傾向として同じ準1級合格者でも、中学より高校の教員の方が

英語力が高い傾向がうかがえる。

各種試験の比較調査

1. 語彙レベル比較

基本文法をマスターしたと考えられる英検 2 級以上の合格者にとって、テストの難しさの大きな要因は語彙であると言われている。そこで、英検準 1 級、TOEFL、TOEIC の各試験がどのような語彙レベルで構成されているかを分析することにした。その基になる資料は、英検、TOEIC、TOEFL を実施している団体から提供していただいた。英検からは、どの回のテストでもレベルは同じであるとの説明を受け、平成 15 年 1 月 26 日実施のテストを提供してもらった。TOEIC は『公式ガイド&問題集』の中にある「練習テスト」と各回のテスト・レベルは同等であるとの説明を受け、『公式ガイド&問題集』Vol.1 と Vol. 2 を提供してもらった。分析には、Vol.2 の第 4 章「練習テスト」を使用した。TOEFL からは下記 4 点を提供され、4 点を分析すればレベルがわかるという説明を受けた。また、3 つのテストのレベルを客観的に測るために、英検 2 級、英検 1 級の各 1 回分、そして高校で一番難しい検定教科書の一つと言われている *The Crown English Reading* (三省堂) も 1 冊分析した。

[語彙分析で使用した資料]

- 英検：2 級，準 1 級，1 級問題 （平成 15 年 1 月 26 日実施）
- TOEFL: *Test Exercise Book*,
Test Preparation Kit Workbook,
Practice Tests Workbook Vol. 1 & 2
- TOEIC: 『公式ガイド&問題集』 vol.2 pp.150-177
- 高校教科書: *The Crown English Reading*(2003) (三省堂)

分析に使った語彙表は、国内で唯一 12000 語までを公表している ALC の Standard Vocabulary List、分析ツールは、その語彙表を基にして一万語まで分析できる

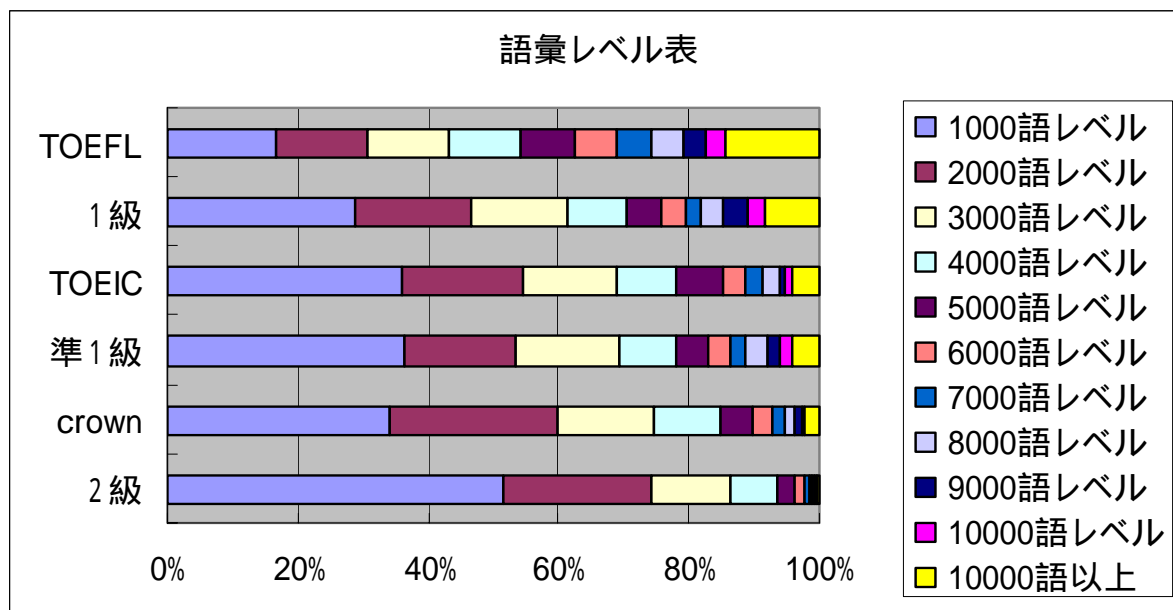


図1 語彙レベル表

ALC10 (金田正也開発) を使用した。ALC10 は、不規則動詞形、s 以外の複数形をとる名詞や Internet や email などの新語が SVL にないので、それらの語は一万語以上と判定する。また、indigo など、日本語になっているもので、一万語以上と判断される語がある。そして、一万語以上と判断された語にも ish や ness などの接尾辞や接頭辞によって意味が類推できるものもある。それらの語を一万語以上レベルとして判定するのは、この妥当性研究の本来の趣旨から考え好ましくないと判断した。そして、その様な語は、この研究チームのメンバーの合意の上で、省くことにした。補遺 1-6 に、各テストのレベル別数とで一万語以上と判断した語をリストアップした。図 1 が示すように、語彙面からは、英検準 1 級と TOEIC はほぼ同じと考えられる。TOEFL は、語彙の面から考えると英検 1 級を凌駕する難しさである。また、高校で難しいと考えられている教科書は英検 2 級と英検準 1 級の間位置した。つまり、教科書を指導しているだけでは、たとえレベルの高い教科書であっても、英検準 1 級の語彙に追いつかない。まして、この難しい教科書指導できる教員は、少数でしかないと考えると、日常的に自己研修に励まないと準 1 級や TOEIC の語彙をマスターすることはできない。

2. 各試験問題の形態，リーダビリティ，トピックなどの比較

〔各試験問題の語彙以外の比較調査で使用了資料〕

- 英検：準1級問題（平成15年1月26日実施）
- TOEFL: *Test Preparation Kit Workbook* practice A pp.85-116
- TOEIC: 『公式ガイド&問題集』vol.2 pp.150-177

上記資料を基に，各試験問題の「形態上の比較」「読解問題の語数とリーダビリティの比較」「聴解問題（特にモノローグ）の語数とテキストのリーダビリティの比較」「トピック比較」を行うことによって各試験の特徴を明らかにしようと試みた。

1) 各試験問題の形態上の比較

表3 各試験問題の形態上の比較

	準1級	TOEFL	TOEIC
試験時間	110分	115分	120分
語彙・文法／読解など	90分	80分	75分
リスニング	約20分	35分	45分
設問の種類	6	6	7
語彙・文法など	2	2	2
内容把握など	2	1	1
リスニング	2	3	4
要解答数	80	140	200
語彙・文法	30	40	60
並べ替え	5	0	0
文章完成	10	0	0
内容把握	10	50	40
聞き取り(写真)	0	0	20
聞き取り(応答)	0	0	30
聞き取り(対話)	13	38	30
聞き取り(モノローグ)	12	12	20

上記の表から読み取れる内容を列挙すると次のようになる。

- ・ 試験時間はほぼ変わらないが，リスニングの時間に大きな差がある。
- ・ 設問の種類はほぼ変わらないが，リスニングの種類に差がある。
- ・ 要解答数には大きな差がある。特に，「内容把握」(準1級の「穴埋め(文章完成)」を含む)，「聞き取り(対話)」(TOEFLの200語を越える対話聞き取り問題を含む)にその差が顕著であり，準1級は他の2試験に比べ極端に少ない。
- ・ 「語彙・文法など」(準1級の「並べ替え(文章完成)」，TOEICの「誤り指摘問題」を含む)では，TOEICが他の2試験と比べ，要解答数が多い。
- ・ 「並べ替え(文章完成)」(文章の一部を並べ替えて完成させる)，「穴埋め(文章完成)」(文章の一部を空所にして，適切な語・句を選んで完成させる)の問題は，準1級だけの特徴である。
- ・ 「聞き取り(写真)」(写真を正確に describe している文を4つ聞き，正しいものを選ぶ)，「聞き取り(応答)」(疑問文や命令文1文を聞き，それに対する3つの応答文を聞いて正しいものを選ぶ)問題は，TOEICだけの特徴である。

2) 読解問題の語数・リーダビリティの比較

● リーダビリティ計測ツール：Flesch-Kincaid Grade Level

次ページの表4は，各試験の読解(内容把握)問題の語数及びリーダビリティの一覧表である。準1級の「穴埋め(文章完成)」問題(番号36-45)も読解問題の一種と判断し，この分類に加えた。しかし，空所があるため正確なリーダビリティを測ることができなかった。合計の語数にカッコを付したのもこの理由による。また，語数は本文だけで，質問文や選択肢は含まれていない。要点は次のとおりである。

- ・ TOEICは他の2試験と比べ，短い文書を多数出題する。
- ・ 総語数では，準1級が他の2試験と比べ若干多い。
- ・ リーダビリティでは3試験とも大きな差はない。ただし，使用した分析ツールでは12レベル以上の数値が出てこないのも，それ以上の分析はできない。

表4 各試験の読解問題比較--語数及びリーダビリティ

準1級			TOEFL			TOEIC		
番号	語数	readability	番号	語数	readability	番号	語数	readability
36-40	288	-	1-10	287	8.6	161-162	94	7.3
41-45	310	-	11-20	302	12	163-165	59	12
46-50	415	12	21-30	291	12	166-167	77	12
51-55	417	11.7	31-40	338	12	168-170	88	12
						171-172	58	12
						173-177	97	11.3
						178-179	68	12
						180-181	81	8.4
						182-183	75	12
						184-185	47	12
						186-188	40	12
						189-190	87	9.2
						191-193	93	11.7
						194-195	81	12
						196-197	70	12
						198-200	93	11.6
	(1370)	11.85		1218	10.87		1208	11.22

3) 聴解問題の語数・リーダビリティの比較

「形態上の比較」で見たとおり，各試験のリスニング問題の時間と種類には大きな差異がある。TOEICの「写真」と「応答」問題は，他の2試験にはない形式なので比較することはできない。一方，比較的短い対話聞き取り問題は，要解答数や語数に差はあるものの，形式が似ているので，設問の問い方を分析してみた。その結果，

語彙・表現・言い回しなどの「言い換え」によって内容理解を問う問題。

話し手の行動や発言の意図，対話場面，話題やポイントなどを対話全体から正

確に「推察」できるかどうかを問う問題。

対話内容から、話し手のその後の行動や発言を正しく「予測」できるかどうかを問う問題。

の3種類に分類できた。「言い換え」は発言内容を文字通り理解しているかどうかを語学力の観点から測るもの。「推察」「予測」は話題のポイントや状況を理解し、対話の流れを正確に把握できるかどうかを認知能力やコミュニケーション能力の観点から測るものと考えられる。この分類に従うと、「推察」「予測」の問い方は、準1級(13問中10問:76.9%), TOEFL(30問中16問:53.3%)に多く、「言い換え」の問い方はTOEIC(30問中18問:60%)に多いことが判明した。この結果は、計測ツールによる数値ではないので、データとしては信頼性に欠けるが、各試験の短い対話聞き取り問題の問い方には、概ねこのような傾向があると考えられる。

計測ツールで測れる聴解問題は、「聞き取り(モノログ)」である。準1級には6課題文、TOEFLには3課題文、TOEICには7課題文が出題されている。ただし、TOEFLには他の2試験にはない長い対話問題が2課題文あるので、聞き取りの語数の観点から分析の対象に含めた。

表5 聴解問題比較--語数及びテキストのリーダビリティー

準1級			TOEFL			TOEIC		
番号	語数	readability	番号	語数	readability	番号	語数	readability
14-15	138	9.1	31-34	248	(3.1)	81-82	81	8.7
16-17	146	12	35-38	251	(5.2)	83-84	97	10.4
18-19	143	10.7	39-42	212	10	85-86	65	12
20-21	144	8.2	43-46	251	9.6	87-90	94	11.1
22-23	150	8.8	47-50	259	11	91-92	81	6.8
24-25	153	7.1				93-96	50	12
						97-100	120	12
	874	9.32		1221	10.2		588	10.43

また、リーダビリティーの計測は、本来書きことばに用いられるものであるが、リス

ニング・テキストとしての「読みやすさ」を測るために、あえて計測し比較してみることにした。表5はその結果である。

この表から読み取れる内容を列挙すると次のようになる。

- ・ 1つの課題文は、TOEFLが一番長く、総語数も多い。
- ・ モノローグの課題文のリーダビリティ平均は、TOEFLとTOEICはほぼ同じだが、準1級がやや低い。ただし、TOEFLの対話問題のリーダビリティは含めない。
- ・ 準1級とTOEICのリーダビリティは、課題文によって差がある。

以上のとおりだが、リスニングという観点から見れば、リーダビリティが高いもの、あるいは語数の多いものが必ずしも難易度が高いとは言えないこと。語数が多いものは、「記憶力」(retention)を必要とする場合が多いことを付記しておく。

4) トピック比較

トピックに関するスキーマは、年齢、経験、教育などによって相違がある。

表6 トピック比較

1.リスニング(対話)	準1級	TOEFL	TOEIC
社会(日常)	10	23	15
学校(大学)	1	7	0
会社	2	0	15
2.リスニング(モノローグ)			
社会	5		2
学校		5	
会社	1		5
3.読解・内容把握問題			
社会	3		2
学校		4	
会社	1		14

語彙や文法構造の知識が同等の場合、読んだり聞いたりするトピックのスキーマがあるかないかによって、認知や理解の深度に大きな影響を与える。従って、各試験のトピックを比較してみることは、対象者を特定する手掛かりとなりうる。しかし、トピックの分類には決まった規則や方法ある

いはツールがあるわけではなく、分類の数も決まっているわけではない。さらに、試験問題の英文、特に短文には、トピックの場面や状況を特定できない場合が多い。これらを考慮し、同時に、今回の調査の目的を考え合わせた場合、トピックを「社会(日常)」「学校(大学)」「会社(オフィス)」の3つに大別すること。内容的にまとまりのある、「聞き取り(対話)」「聞き取り(モノローグ)」「読解(内容把握)」を分析の対象にすることが妥当であると考えた。

一般的に、準1は社会生活全般、TOEFLはアメリカの大学の講義、TOEICはビジネス関係という認識で受けとめられているが、その印象が数値として証明されたとと言える。トピックに関する限り、TOEFL、TOEICは受験対象者がかなり特化されているのに対し、準1級は学生から社会人に至る幅広い層を対象としていることが窺える。従って、日本の英語科教員がTOEFL、TOEICを受験した場合、同じ準1級合格者でも、個人の経歴、興味・関心、志向等の違いによって、スコアに大きな差が生じることが予想できる。本調査で行った準1級合格者の2つの試験結果でもそれが裏付けられたと言えよう。

3. 日本で受験可能な英語能力試験の特徴に関する調査

日本では、現在、中学校及び高等学校の英語教員の英語指導にかかわる能力テストはない。本戦略構想では、英語教員が備えておくべき英語力及び教授力の測定の可能性を視野に入れ、外部試験(英検、TOEIC、TOEFL、ケンブリッジ英検などを意味する)の特徴を英語教員の能力測定への利用を考慮して研究中である。その点を踏まえて、本調査は、英語教員が備えておくべき英語力と外部検定試験との関連、各試験の点数互換の妥当性等に関する研究の基礎資料として、各試験で公表されている事実をまとめたものである。

1) 試験の種類：

日本で受験可能な「英語能力総合試験」
日本で受験可能な「英語口頭能力試験」

今回の戦略構想で具体的に提示された試験と同等に日本で実施されているものという観点からまとめた。英語教員の英語力測定の可能性を前提としているので、それ以外の英語試験（商業英検，工業英検，ビジネスや，エンジニア，旅行などに特化した試験，あるいは，中学生・高校生を対象とした試験など）は除外した。

2) 調査対象試験の名称：

日本で受験可能な「英語能力総合試験」

- ・ 英検（実用英語技能検定）（準1級を中心として）
- ・ TOEIC（730点を中心として）
- ・ TOEFL
- ・ IELTS (International English Language Testing System)
- ・ ケンブリッジ英語検定試験(Cambridge ESOL exams)（FCEを中心として）
- ・ G-TELP (General Tests of English Language Proficiency)（2級を中心として）
- ・ 国連英検(国際連合公用語英語検定試験)（B級を中心として）

日本で受験可能な「英語口頭能力試験」

- ・ 英検面接テスト（準1級）
- ・ TOEIC LPI (Language Proficiency Interview)
- ・ TSE(The Test of Spoken English)
- ・ IELTS の面接テスト
- ・ ケンブリッジ英語検定の面接（FCE）
- ・ 国連英検の面接テスト(B級)
- ・ SST (Standard Speaking Test)
- ・ PhonePass

3) 調査比較項目：

目的，認定形式，試験形式，試験時間，試験問題数，語彙レベルの設定，試験（問題）内容，到達基準レベル設定，対象者，面接者・評価者

一概に比較することはむずかしいが，あえて上記のような項目に分けて比較した。試験の性格上公表していない部分も多い。多くの文献から推測して記述可能な部分もあるが，あえて言及していない。また，公表している内容と実態にずれを感じる部分もあるが，一般に公表されている事実のみ抽出した。

4) 調査実施時期と資料

調査実施時期は2002年7月から2003年7月までで、その時期に公開されている各試験団体のパンフレット、ガイドブック、冊子、及び、ウェブサイトに記述されている資料をもとにしている。

5) 調査結果の概観

各試験比較表から見られる、それぞれの調査項目に関する特徴をまとめると以下のような傾向が見られる。

日本で受験可能な「英語能力総合試験」

- ・ 目的：それぞれの試験の目的は、概ね一般的な実用的な英語能力を測定することを目的としているが、TOEFL と国連英検については、より試験目的が明確な方向性を示している。
- ・ 認定形式：TOEFL と TOEIC がスコア方式をとっている。一方、IELTS はレベルを認定している。その他の試験はレベルを設定し、そのレベルに適しているかどうかを判定している。
- ・ 試験形式：筆記・多肢選択の問題形式が多いが、ケンブリッジ系の筆記・記述もある。全体的に、「話す」技能同様、「書く」技能の測定は少ない。コンピュータを利用したテストはTOEFLのみである。
- ・ 試験時間：ケンブリッジ英検が294分という最長の試験時間を示している。これは4技能すべてを含んでいるからである。その点を考慮すると、90～120分の時間に最も集中している。
- ・ 測定技能分野・試験問題数：試験形式、試験時間などから分かるように、問題数もその影響により様々である。国連英検を除いて、いずれの試験も、リーディングとリスニングの技能を測定している。
- ・ 語彙レベルの設定：語彙項目や語彙レベルの設定については、英検以外のテストは特に言及していない。語彙数レベル設定に関しては、テスト問題の公表の問題とからんでいるようである。英検のみが、実施後に問題内容を公表している。
- ・ 試験（問題）内容：すべての試験に共通して出題されている問題は、リーディングである。問題の内容は多彩であるが、大きく分けると、一般的な内容を扱うか、アカデミック（学習や研究）な内容を扱うかになる。これはそのテストの目的と大きくかわる。
- ・ 到達基準レベル設定：それぞれの試験の総合的な到達度レベルに関しては、英検の準1級、TOEIC730点、TOEFL550点という段階では、概ね、英語を母語とする話者とのコミュニケーションが、ある程度の限界はあるが、特に問題なくできるという設定をしている。しかし、それぞれの試験が、大前提として、その試験の目的に則ったレベル設定をしている点が基本となる。
- ・ 対象者：それぞれの試験は、それぞれの目的を持ち、対象者を設定している。学習者が自分のレベルの把握を目的とするか、あるいは、留学や外国での仕事などを目的とするかなどで、試験の意味も変わってくる。

日本で受験可能な「英語口頭能力試験」

- ・ 目的：英語能力総合試験の中の面接として実施する試験と、口頭能力だけを測定する試験がある。目的は大きく分けて二つある。スピーキング力だけを測定する場合とオーラルコミュニケーション能力を測定する場合。
- ・ 試験内容：TSE と PhonePass を除いて、対面形式をとり、試験官（面接官）とのやりとりによる試験。その場合の内容的な違いは大きく2点ある：(a) 面接の際の発話活動（質問に対する答え，説明描写，ロールプレイ，受験者同士のやりとりなど），(b) 内容が一般的かある分野に特化しているか。
- ・ 試験形式：個人面接が一般的であるが，ケンブリッジ英検，国連英検は多少異なる形式を取っている。しかし，手間と時間がかかることから，最近，コンピュータなどを利用した試験形式が簡便に実施される傾向が出てきている。
- ・ 試験時間：試験時間はLPIが最も長く，約25分である。最短はPhonePassの5分であるが，10分が標準の試験であり，対面式の場合，7～15分の範囲で測定されている。
- ・ 到達基準レベル設定：到達基準のレベル設定については，段階の分け方がそれぞれの試験により多少異なるが，基本的にそれほど大きく変わる要素はない。ほぼ一般的な内容を前提として，口頭能力のレベルを設定している。細かい基準については非公開となっているので，詳しい測定方法の比較はむずかしい。いずれのテストでも重要な要素は，評価者のトレーニングとなっている点は変わりがないが，コンピュータで測定を試みているPhonePassのみが異なるシステムを取り入れている。
- ・ 試験官（面接官）及び評価者：試験官（面接官）や評価者については，英語母語話者を基本としている場合とそうでない場合がある。また，その際に重要な点がトレーニングの質である。その点について詳しく説明されている試験とそうではない試験がある。さらに，試験官と評価者を別にするにより，より測定の精度を高めようとする傾向がある。
- ・ 対象者：日本語を母語とする英語学習者を対象とした試験と，英語を母語としない英語学習者で，明確な目標（留学や仕事）を前提とした試験に分類できる。口頭試験だけに限ると，ある程度の英語力をすでに保持している人を対象とする傾向がある。
- ・ その他の特徴：コンピュータ等による対面式ではない測定方法が開発され，導入される傾向がある。また，別の問題として，日本人学習者を意識した口頭試験がどの程度必要かという面も考慮されるべきだろう。

なお，これらの「英語能力総合試験」及び「英語口頭能力試験」の比較対照表は，補遺10及び補遺11に掲載してある。詳細については，それを参照されたい。

表7 日本で受験可能な「英語能力総合試験」比較項目

名称	目的	認定形式	試験形式	試験時間	測定技能分野・試験問題数	語彙レベルの設定	問題の内容					到達基準レベル設定					対象者	
							聞く	話す	読む	書く	文法・語彙等	聞く	話す	読む	書く	文法・語彙等		総合
英検																		
TOEIC						×												
TOEFL						×												
IELTS						×												
ケンブリッジ英検						×												
G-TELP						×												
国連英検						×												

表8 日本で受験可能な「英語口頭能力試験」比較項目

名称	目的	試験内容	試験形式	試験時間	認定形式	到達基準設定	試験官(面接官)及び評価者	対象者	その他の特徴
英検面接テスト(準1級)									
TOEIC LPI (Language Proficiency Interview)									
TSE(The Test of Spoken English)									
IELTSの面接テスト									×
ケンブリッジ英検の面接(FCE)									×
国連英検の面接テスト(B級)									×
SST (Standard Speaking Test)									×
PhonePass									

英語力と英語使用に関する調査

英語教員が備えるべき英語力に関する調査は、「教室内における英語使用の意識」「英語能力試験に関する意識」「海外研修に対する意見」「設定された目標値に対する意見」「英語教員が備えておくべき資質に関する意見」の5つの調査で構成される。「教室内における英語使用の意識」は、事前にアンケート用紙を配り、回答していただき、後の項目は、試験当日インタビューで調査する形式を取った。

1. 教室内における英語使用の意識調査について

- ・ 調査方法：アンケート
- ・ 質問項目：授業中の主要な活動 表9記載の7領域43項目
- ・ 回答スケール：4：よくおこなう，3：時々行う，2：あまり行わない，1：行わない，0：日本語でも英語でもその活動及び行為は行わない

英語教員が授業で使っている英語使用を調べるために、まず、授業中の教師の活動を次のページの表9に示す主要な43項目に分類し、そのそれぞれの項目に対して、上記に示した5段階の回答欄を設けたアンケート用紙を作成した。冬季休業中にTOEFLとTOEICを受験した英検準1級合格している教員に、事前にそのアンケート用紙を送り、回答してもらった。

アンケートの43項目は、その特徴により、7つの領域に分類した。英語使用は、学年や科目、つまり、中1、中2、中3年、高校の英、英、OC、リーディング、ライティングによって異なるであろうから、各教員には担当している科目全てについて回答してもらった。

表9 教室で英語を使う主な活動

教室英語	小テストを実施する
生徒を席につかせる	テストの解説をする
自分や黒板などを注目させる	前の授業を復習する
静かにさせる注意をする	導入
行為をしかったり罰をあたえる	重要構文の導入する
生徒の活動や行為をほめる	新出語の導入する
生徒に大きな声を求める	レスントピックを導入する
生徒に感謝する	本文を導入する
生徒の誤りを訂正する	発音の指導をする
生徒の理解を確認する	教授
任意の参加を求める	内容把握の指導をする
指名して活動をさせる	教科書本文を要約する
授業中, ALTに指示する	語句や文の意味を説明する
授業中, ALTに依頼する	文をパラフレーズする
スモールトーク	文法を指導する
授業開始のあいさつをする	和文英訳を指導する
授業のはじめに曜日等を確認する	練習・その他の活動
出欠・遅刻の確認する	パターンプラクティスをする
欠席[遅刻]理由を聞く	コミュニケーション活動をする
生徒の健康チェックをする	ノート等を書く作業をさせる
天候について聞く	歌を指導する
前日等の話題・行動について聞く	ゲームを指導する
日常的な話題を提供する	まとめ
復習	授業をまとめる
宿題を確認する	次の授業の指示をする

7つの活動の平均点を総計したものが図2である。全てに、「よく使う」と回答すると28点となる。全てに、「時々行う」と回答すると21点となる。全てに、「あまり行わない」と回答すると14点となる。図2から、

- ・ 高校の授業に比べて、中学校の授業の方が英語を使っている。
- ・ 一番使われているのは中学2年である。
- ・ 高校は、OC以外は14以下である。(図3のデータは補遺7で示した)

以上のことが読みとれる。

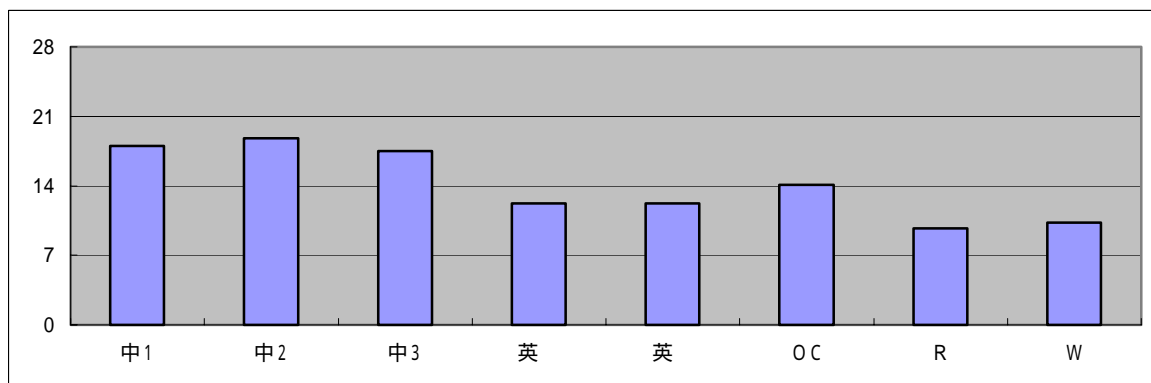


図2 担当別授業時英語使用状況平均グラフ（自己申告）

2) 中学校での英語使用

中学校の授業での英語使用をしてみる。7の分類で、7割以上の活動に使用されているのが「教室英語」、「スモールトーク」、「導入」、「練習」である。それに対し、「復習」と「教授」、「まとめ」は5割程度の使用にとどまっている。「教授」は、知識を与えることなので、日本語使用が多くなるのであろう。また、まとめは、学年が高くなるに従って、英語の使用率が下がる。これは、学習事項の定着のためには、日本語を使う方が「まとめ」を有効にすると考える教員が多く、学年が上がるに従い、その学習事項の定着を重視する考えが強くなるからであると推察される。

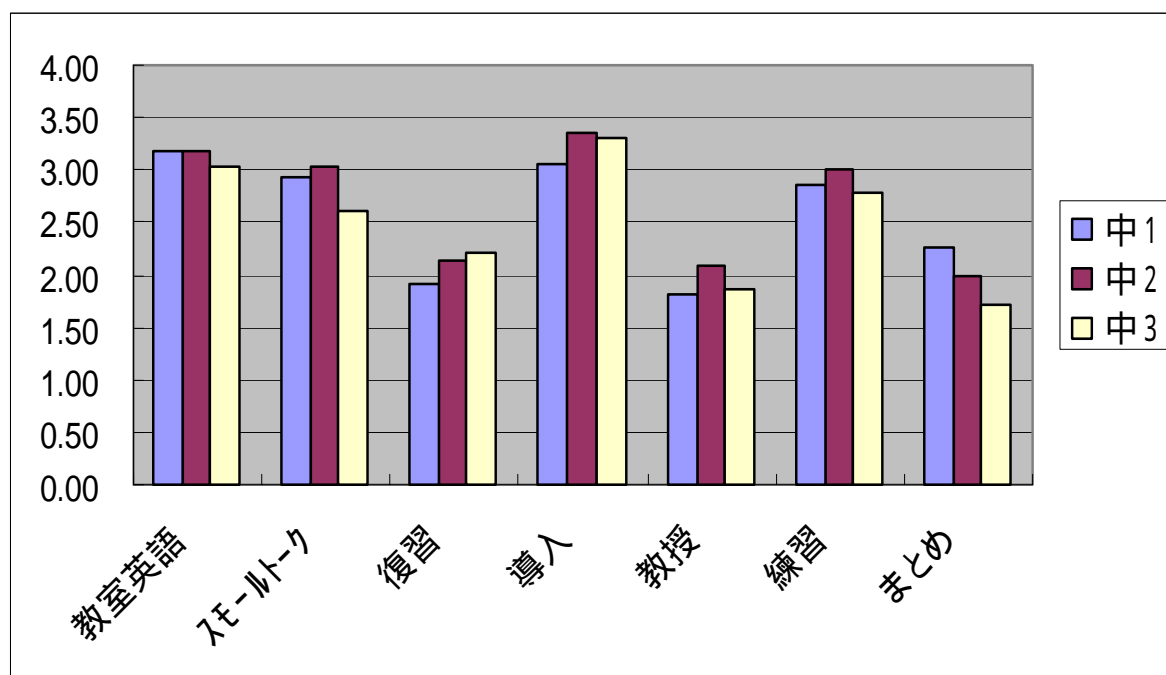


図3 活動別英語使用状況（中学校）

表 11 英語をよく使う活動(中学)

活動内容	領域	ポイント
授業開始のあいさつをする	スモールトーク	3.9
自分や黒板などを注目させる	教室英語	3.8
生徒の活動や行為をほめる	教室英語	3.6
発音の指導をする	導入	3.6
生徒を席につかせる	教室英語	3.6
授業中, ALT に依頼する	教室英語	3.6
生徒に感謝する	教室英語	3.5
新出語の導入する	導入	3.5
パターンプラクティスをする	練習	3.4
授業中, ALT 指示にする	教室英語	3.4
静かにさせる注意をする	教室英語	3.4

次に, 全項目より, 教師が良く使う英語使用をリストアップした。回答者が中1担当者15人, 中2担当者13人, 中3担当者9人と少ないが, 比較的簡単な言葉を発することのできる「教室英語」や「スモールトーク」に続き, 「発音の指導」や「新出語の導入」, 「パターンプラクティス」の「導入」や「練習」で英語が使われているのは注目される。また, 補遺 8 で示したが, 「新出語の導入」と「発音指導」は, 1年より2年, そして3年と3年間を通して伸びている活動である。これらが生徒

の英語力の向上とともに指導しやすくなる活動と考える傾向が回答者には見られたと言えるだろう。

表 12 英語をあまり使わない活動(中学)

活動内容	領域	ポイント
テストの解説をする	復習	1.4
語句や文の意味を説明する	教授	1.8
行為をしかったり罰をあたえる	教室英語	1.8
文法を指導する	教授	1.8
教科書本文を要約する	教授	1.8
宿題を確認する	復習	1.9
和文英訳を指導する	教授	1.9
文をパラフレーズする	教授	2.0
授業をまとめる	まとめ	2.0
次の授業の指示をする	まとめ	2.0

表 12 に示した英語を使用しない場面は, 「教授」, 「復習」と「まとめ」の領域が目立つ。この領域は, 日本語できちんと理解させたいという考えを回答者が持つ傾向にあったと言える。また, 比較的よく使われている「教室英語」でも「しかったり, 罰を与える」指導は, 理由をはっきり日本語で言わないと効果がないと考えられているのであろう。

現在の指導の枠組みがなかなか変更できないことを前提にすれば, 「テストの解説をする」, 「語句や文の意味を説明する」, 「教科書本文を要約する」という指導を英語で

で

きるスキルを身につければ、教室での英語使用率は増えると考えられる。また、補遺8で示したが、英語使用が一番多い中2から中3にかけて、大幅に減少するのは、曜日の確認と天候の確認である。これらの活動は、中2段階で初歩的な表現が定着したと考えられているのであろう。ただ、それは、回答した教員が単純な練習方法しかできない可能性もあるので、その活動で、もう少し深く練習できるスキルやトピック、知識などを身につければ、英語使用が高まるであろう。

3) 高校での英語使用

表13 OC以外で、高校でほとんど行われていない活動

活動内容	領域	英	英	R	W	OC
授業中、ALTに指示する	教室英語	2.29	1.00	0.60	0.50	3.50
授業中、ALTに依頼する	教室英語	2.36	1.00	0.60	0.50	3.50
ゲームを指導する	練習	0.93	0.93	0.20	0.70	2.38
前日等の話題・行動について聞く	スモールトーク	1.86	1.27	0.80	0.90	2.19
歌を指導する	練習	1.00	0.33	0.80	0.90	1.25
生徒の健康チェックをする	スモールトーク	1.29	0.93	0.80	0.80	1.81
コミュニケーション活動をする	練習	1.86	1.87	0.80	1.90	3.38
天候について聞く	スモールトーク	1.50	1.00	0.80	1.20	2.19
授業のはじめに曜日等を確認する	スモールトーク	1.29	1.07	0.80	0.80	1.75
教科書本文を要約する	教授	1.21	1.93	1.60	0.80	0.31

高校の教員には「日本語でも実施しない」との回答が多かった。表13では、平均点が1点を切った科目が1つでもある活動を提示した。日本語でも指導していないことは、そのような活動がほとんど行われていないという解釈が成り立つ。また、生徒に英語を使わせる目的で導入されたALTであるが、高校では、OCとせいぜい英語のクラスで活用されているにすぎないことが、表13からも窺がえる。ALTに関する活動を除くと、「スモールトーク」と「練習」の領域に属する活動が高校で行われていない傾向を表している。アンケートには、「この43項目以外で、行っている活動があれば記述してください」と書いたが、書かれた回答はなかった。したがって、高校での英語使用は、中学校に比べて領域が狭いと考えられる。

表 14 英語を少しは使う活動（高校）

活動内容	領域	ポイント
生徒の活動や行為をほめる	教室英語	3.4
生徒に感謝する	教室英語	3.2
自分や黒板などを注目させる	教室英語	3.0
発音の指導をする	導入	2.9
静かにさせる注意をする	教室英語	2.8
授業開始のあいさつをする	スモールトーク	2.8
生徒を席につかせる	教室英語	2.7
指名して活動をさせる	教室英語	2.7
生徒に大きな声を求める	教室英語	2.6
新出語の導入する	導入	2.6

表 14 は、高校教員が英語を少しは使う場面を表している。ほとんどが「教室英語」の領域にある活動である。それ以外では、簡単な「授業の開始時のあいさつ」を除くと「導入」の領域にある活動が入っている。高校ではあまり行われていない傾向にある「スモールトーク」と「練習」の領域に属する活動は、口頭での活

動を実施しやすい活動であるので、この領域にある活動ができるスキルを身につけさせれば、高校での英語使用を増やすことができる可能性があると言えるであろう。補遺 9 にデータを示してあるが、「和文英訳を指導する」活動で、OC が英 より多い数字だった。これは、英 なみに和文英訳指導が行われていることを表す。OC で文法が教えられている学校があることをも示唆している。

4) 教室における英語使用についてのまとめ

Jim Cummins(1984)は、永年の研究の結果、人間の言語能力を大きく2種類に分けた。日常会話などで使われる BICS(Basic Interpersonal Communication Skills)と、考えたり、推論したり、議論したりするときを使う CALP(Cognitive Academic Language Proficiency)である。BICS は、日常的に遭遇する状況で使われる言語能力で、ある一定のレベルまで習得してしまえばそれ以上学び続ける必要はなく、比較的早く使えるようになる。それに対し、CALP は、人間が新しい概念を創造し、新しい知識を吸収し続ける限り学び続けるものである。Cummins は、カナダへの移民の子供達を調査した結果、BICS なら2年くらいで母語話者と同じ程度になるのに対して、CALP は、母語話者に追いつくまでその3倍から4倍の時間がかかると説明している(吉田、柳瀬 2003)。英語が使える日本人を増やすということは、中高を通して BICS

と CALP の両方の訓練が行われることが必要であると言える。7つの活動を BICS と CALP の枠組みにあてはめてみると、厳密には行かないが、おおよそ「教室英語」、
「スモールトーク」、「導入」、「練習」が BICS に、「復習」、「教授」、「まとめ」が CALP に当てはまると言えるだろう。中学校までの英語や OC は、どちらかというところ、BICS の訓練が中心であり、高校では CALP の枠組みに入るのであろう。CALP を教える初期の段階は「母語の使用」が効果的と言われているのは確かである。しかし、日本の学校現場では、その初期の段階をすぎても CALP を英語で教えないどころか、OC がほとんどの学校で1年次に1～2単位の科目になっていることを考えれば、BICS の訓練さえ高校1年の段階を終えると実施されていないことが今回の意識調査で判明した。この現状では、英語を使える日本人を増やすことは難しいと言える。この現状を変えるには、中学校では、スモールトークを中心とした BICS の訓練のしかたについて学ぶための研修、高校では「復習」、「教授」、「まとめ」を、最初は日本語でそして次第に英語を交えながら行うことができるスキルを身につけるための研修を計画・実施していくことが効果的であると考えられる。

2. 英語能力試験受験の動機

表 15 英語能力試験受験の動機

動機	件	%
英語力の客観的な確認	34	58.62
英語力の維持向上	30	51.72
自己研鑽英語学習の指標	17	29.31
生徒を指導する上での参考	11	18.97
英語学習動機を高める	6	10.34
他校への転出や転職の準備	4	6.90

英語能力試験を受験する[あるいは定期的に受験している]2つの大きな理由は、「自分の英語力を客観的に確認するため」と「英語力の維持・向上を図るため」が共に5割を超えている。両者が、ほぼ拮抗しており、それぞれ5割を超えている。

これらの理由は、第3位の「自己研鑽・英語学習の指標」と重複する内容も含んでいられると思われる。また、生徒が英検等の能力試験を受けていることから、教員自身も受

験して「生徒を指導する上での参考」とする回答は約2割近い。このような結果から本調査対象者は、英語力を向上させる意欲が高く、英語能力試験を受験することに積極的であることが分かる。

[個別意見]

積極的に受験する理由：

- ・ 「自己の能力向上のため。生徒に英検受験を勧めるため。テストの傾向の理解や勉強の仕方へのアドバイスに役立てるため。」
- ・ 「自分の英語力を客観的に見るため。英語力を向上させるための目標とするため。」
- ・ 「自身の語学力の向上。検定等に向けて自分で学ぶ中から、自分にプラスになったものを授業や個別の指導に生かしたい。」
- ・ 「英語学習の動機づけ。仕事だけだと英語の力は落ちる。資格試験は春休みに行われることが多く校務には差し支えない。中学教師は英語力が低いと思われがちなのでこれを払拭したい。」
- ・ 「教える立場の人間として自分自身の能力を向上維持して行きたいと考えたため。」
- ・ 「英語教師を続けていくため。英語学習に興味がありライフワークとして受験を続けたい。」
- ・ 「自分自身の英語力を高めるための具体的な目標になると思うので」
- ・ 「実力向上の目安とするため。こういうものがないと独りよがりになりやすいので。」
- ・ 「自己に英語能力を試すことにより、能力を維持するため。生徒から能力試験について質問されたり、アドバイスを求められた時、受験経験がある方が適切に答えられると思うから。」
- ・ 「ALTの導入により、生徒の前で「ごまかし」は効かなくなった。帰国子女生徒や海外勤務の経験のある保護者も多い。英語教師のプライドにかけて、少なくとも

も彼等と同等以上にいたい。」

- ・ 「生徒に英語を教える際に，しっかりとした英語力が必要だと思うから。」
- ・ 「所属長が，あるとき英語教員は英検準 1 級は取得してほしいとの意向を述べたのをきっかけに，積極的に受験するようになった。」

受験志向を示す各種試験に関するコメント：

- ・ 「TOEFL は reading が手強い。listening は簡単で，全般的に academic。英検はトピックが面白い。TOEIC はビジネス向き。海外で日常生活を送りたい人には向いている。」
- ・ 「TOEFL や TOEIC は発信型の力は試されない。TOEIC はビジネス向け。英検の方は日本人教員に向いている。」
- ・ 「TOEFL は listening や speaking は高度だが，訓練すれば問題なし。」
- ・ 「教員が受けるテストの順位は，実務的な要素もある TOEIC，アカデミックな TOEFL，日本人向けだから global な力が図れるかの心配がある英検。」
- ・ 「3 つのテストを受けた経験をもつ者として，TOEFL が一番難しい。特にリスニングが難しい。英検準 1 級は難しいと思わない。」

3．英語力の基準設定に関する意見

目標値の設定を肯定する回答は，有効回答数 57 のうち 50 (全体の 87.7%) を数えたが，回答の内容には温度差が見られる。「素晴らしい」「当然だ」「良いことだ」という積極的な表現から，「努力目標として必要だ」「目安なら結構だ」「前向きにとらえたい」など，意を含む言い回しまで多様である。また，肯定の理由だけを述べている回答数 9 (肯定回答数の 18% 全面的肯定) に対し，付帯意見，あるいは，付帯条件をあげている回答数が 41 (同 82% 条件付肯定) に及ぶ。この付帯意見・条件の中には，目標値設定を否定する，あるいは，疑問とする回答者(7人：全体の 12.3%) の意見と符合するものも含まれている。全体的な傾向として，英語力の目標値設定を

表 16 英語力設定基準に関する意見

意見の内訳	人数	%
設定賛成	50	86.21
授業水準の確保 / 意識改革・自己成長のための刺激		
付帯意見・付帯条件	41	70.69
研修に関するもの		
教員評価に関するもの		
教授力の基準に関するもの		
教員免許取得または採用時の条件とするもの		
基準設定を否定，疑問視	7	12.07
英語力より教授力 / 教員採用試験 / 妥当性 / 英語科教員		

肯定的に受けとめてはいるが、それを実現するには、様々な環境整備が必要であるという認識を持っている教員が多いことが判明した。以下、次の3項目によって、調査の結果を簡潔に記述する。

- ・ 目標値設定を肯定する理由
- ・ 目標値設定に伴う付帯意見・付帯条件
- ・ 目標値設定を否定，あるいは，疑問視する意見

1) 目標値設定を肯定する理由 設定賛成

全面的肯定の9人のほか、条件付肯定のうち5人の計14人（肯定回答数の28%）が、以下の2点の両方、あるいは、片方をあげている。前者では、表現の違いは多少あるが、この2点以外の意見を述べているものはほぼいない。後者では、5人以外、肯定する理由をあげずに「必要である」という認識を示し、付帯意見や条件を述べている。従って、目標値を設定する理由は、この2点に絞ってもよからう。

- ・ 授業水準の確保：英語力のない教員，意欲・向上心に欠ける教員がおり，そのため授業の質に大きな差が生じている。一定の基準を設ければ，授業の質の水準を保つことができる。
- ・ 意識改革・自己成長のための刺激：目標値の設定は教員に刺激を与え，目標をクリアしようと努力する。同時に，緊張感・責任感・仕事へのプライドを持たせることができる。

この他，補充意見として，「社会人にも学生にも英語力の必要性が叫ばれているのだから，教員に要求されるのは当然だ」「定期的に能力試験を受験させる機会を設けるべきである」とする回答もあった。

2) 目標値設定に伴う付帯意見・付帯条件

次の5つのキーワードで付帯意見・条件を集約することができる。

「研修」、「評価」、「教授力の基準」、「中・高教員」、「教員免許・採用」

ただし、それぞれ独立した論点ではなく、相補的で有機的な関連があること。そのため、回答者の意見や条件は、個々の話題の中心を拾って分類したこと、をあらかじめ断っておく。

研修に関するもの

「目標値や基準を設けると同時に、研修の機会を増やすことが必要である」(14人：条件付肯定の34.1%)という意見である。そのためには、次の3点が必要であると主張している。

- ・研修に出にくい状況を改善し、定期的に研修に出られる環境を整えること。
- ・留学や研修会参加に対し補助金を支給すること。
- ・英語力強化・維持のための研修だけでなく、教授力を伸ばすための研修を、県レベルでも定期的に計画・実施すること。

評価に関するもの

この「評価」とは「教員評価」のことである。9人(同22%)が言及しているが、対立する2つの意見に分かれる。ひとつは、

- ・英語力の目標値を達成したからといって、それを給与や評価(人事異動など)に反映させるようなことは避けるべきである(5人)、

という意見だが、この意見には積極的な肯定論者が多く、一定水準の英語力は必要だが、「英語力と教授力は別物である」「英語力があるからといって、教授力や人間性が豊かとは限らない」という認識に基づくものと考えられる。一方、

- ・英語力の目標値を達成したら、給与や評価に反映されるべきである(4人)、
- とする意見は条件付肯定論者、特に、上昇志向が強いと感じられる回答者に多い。「反映されなければやる気がしない」「英語力向上とともに、普通高校から、優秀高校、そして短大・大学の教員に進めるようなシステムを作るべきだ」とまで述べている回答者もいる。

教授力の基準に関するもの

10人(同24.4%)の回答者が、この論点に言及している。その全員が、英語力の目標値を設定することを肯定はしているが、「英語力と英語教授力は別物である」という認識を持っている。意見は次のふたつのタイプに分類できる。

- ・学校によって教員の適性が異なるので、教授力の測定は難しいが、自己チェックリストなど一定の基準を設定してくれると役に立つ(5人)
- ・学校のレベル・条件が多様化しているので、教授力の基準を作るのは無理だろう(5人)

教員免許取得または採用時の条件とするもの

5人(同12.2%)が、

・目標値達成を教員免許取得、あるいは、教員採用時の条件とする
という意見を述べている。理由は、「現職教員に準1級取得を強制するのは難しい」「教員になってから取得させるのは不賛成」「基準を設定しておけば、学生のうちにその能力を身につけるための準備ができ、それによって大学教育が変わる」というものである。

その他 修正意見

目標値を設定するのは結構であるが、学校の条件によって目標値は異なるだろう、という修正意見である。特に、

・中学教員に準1級を求めるのは酷(6人:同14.6%)、
・高校でも困難校では準1級までの英語力を必要としない(2人:同4.9%)、
という意見で、中学や困難校では、「英語力より指導技術や人間性が強調される」とか、「準1級を持っていれば、中学ではなくもっと高いレベルの学校で教えられる」とコメントしている回答者もいる。

3) 目標値設定を否定、あるいは、疑問視する意見

このグループの主なキーワードは次の4つである。

「英語力より教授力」「採用試験」「目標値の妥当性」「英語科教員」

英語力より教授力

英語力よりも教授力に重点を置いているため、英語力の目標値設定に疑問を呈している意見である。7人中4人がこの点に言及し、「英語力より教授力を身につけるべき」「目標値に達しているから教授力に優れているとは限らない」「高い英語力のある人がすなわち教員としてよい資質に恵まれているとは限らない」「教授力のない教員が多すぎるので、何らかの対策が必要だが、目標値のあり方は疑問である」と述べている。

教員採用試験

「免許状を取得し、採用試験にも通っているので英語力は一定以上に達している」から、目標値は必要ない、という意見である(2人)。ただし、両者とも教授力に関する研修の必要性に言及している。

目標値の妥当性

「英検準1級の根拠が曖昧で、妥当性に疑問を感じる」(1人)、「英検2級で不都合はない」(2人)という意見であるが、いずれも教授力に関する研修の必要性は論じている。

英語科教員

「なぜ英語科教員だけに基準が設けられるのか」(2人)という疑問である。

4. 備えておくべき資質に関する意見

英語教員の資質・能力に関して、『「英語が使える日本人」の育成のための英語教員研修ガイドブック』（文部科学省 2003, pp.3-4）の「第2節 英語指導力の構造」では次のように分類している。

「教職」として求められる資質能力

英語運用能力

英語教授力

本項は、基本的にこの枠組みに基づき、意見を集約してみた。その結果、さらに金谷編（1995）及び久村（2003）の研究を織り込み、新たな枠組みを設定する必要性が生じた。その枠組みを「英語教員が備えておくべき資質・能力の構造」として、まず、下記のようにカテゴリー化した。

表 17 英語教員が備えておくべき資質・能力の構造

教員としての資質・能力	
英語教員に特化した資質・能力	・英語力
	・英語教授力
	・授業の場面で求められる資質・能力
	・授業の準備・終了段階で求められる資質・能力
	・英語教授に関する知識と教養

次に、設定したカテゴリーは上位項目で、その中にはそれぞれいくつもの下位項目が考えられるから、ここではその下位項目に当たる意見をトピックとし、トピック別回答件数として分類・集約した。

下記表 18 のカテゴリー別回答件数の内、 の上位項目は「英語教員に特化した資質・能力」に分類され、合計 68 件となる。分類の原則から言えば、上位項目で横並びに示すべきだが、具体性を持たせるために、あえて下位項目を前面に出した。

表 18 備えておくべき資質に関する意見の集約

1. カテゴリー別回答件数	件	%
教員としての資質・能力	52	89.66
英語教授に関する教養・知識（英語教員に特化した資質・能力）	45	77.59
授業で求められる資質・能力（英語教員に特化した資質・能力）	17	29.31
英語力（英語教員に特化した資質・能力）	6	10.34
2. トピック別回答件数	件	%
言語・文化・社会の背景知識や教養（英語教員に特化した資質・能力）	36	62.07
教員の個人的特性や人間性（教員としての資質・能力）	30	51.72
生徒理解・指導に関する資質・能力（教員としての資質・能力）	21	36.21
授業場面における指導力（英語教員に特化した資質・能力）	16	27.59

トピック別回答件数の内容的な内訳は次のとおりである。（カッコ内は件数）

言語・文化・社会の背景知識や教養

異文化理解・体験・コミュニケーション（13）

英語と英語圏文化の背景知識（9） / 国際情勢に関する知識・教養（7）

日本語日本文化の知識（6） / その他（1）

教員の個人的特性や人間性

性格（明るさ，協調性，社交性，など）（13）

向学心・探究心・好奇心・情熱・情報収集力（10）

人間的魅力（5） / 得意分野（絵画，音楽，など）（2）

生徒理解・指導に関する資質・能力

生徒を理解し受け入れる力（12）

生徒の意欲・興味・好奇心を引き出す力（7）

こどもが好きであること（2）

授業場面における指導力

英語指導力・パフォーマンス能力（スピーチ，ディベート，スキットなど）(8)

英語の楽しさ・わかりやすい授業（6） / 声が大きいこと（2）

その他のトピック

<英語教員に特化した資質・能力>

- ・ 英語力について（6）：（ALT との）コミュニケーション能力(3) / 英語力向上への意欲 / 英語の 4 技能の習熟 / 生きた英語の情報収集
- ・ 授業の準備・終了段階(1)：面白い題材・話題の収集
- ・ 教養・知識（9）：第 2 言語習得理論の知識（2） / 科学的指導と評価の知識と能力 / 英語科教授法 / 発信能力をつける英語教育 / 文法 / 教育機器 / 能力試験・留学制度に関する知識 / 発音に関する音声学の知識

<教員としての資質・能力> 事務能力(1)

5. シンガポール，香港等における海外研修に対する意見

表 19

意見の内訳	人数	%
積極的に賛成	33	56.90
条件付き賛成	14	24.14
反対	10	17.24
無回答	1	1.72
計	58	100

日本の英語教員が研修する場所として英語圏以外(香港，シンガポール，台北，ソウル等)のアジア近隣諸国を選ぶことに対する意見は，表 19 のようになっている。「積極的に賛成」で最も多い意見は「英語はすでに国際共通語である」，次いで「近隣諸国との交流・意見交換」となっている。「条件付き賛成」で最も多い意見は「研修の開催地次第である」である。「反対」意見としては「英語のモデルとしては英語圏がよい」や「東南アジアの英語には訛りがある」がある。

1) 「積極的に賛成」の理由

国際共通語としての英語

- ・ 「国際語としての英語だから英語圏にこだわる必要がない。英語圏以外の方が、英語人口が多いのではないか。日本はこれまでアジアの英語を無視しすぎていたようだ。シンガポールや香港で研修を受けたい。」
- ・ 「英語が世界の共通語であるという観点から考えると、アジア近隣諸国は研修場所としてふさわしいと思う。」
- ・ 「必ずしも米語やオーストラリア英語、イギリス英語だけが全世界で通用する英語ではなく、英語圏以外の英語(アジア近隣諸国で使われる英語)にも、なじんでおく必要があると思う。」
- ・ 「欧米中心の英語教育であると、いろいろな偏見も生まれる。国際共通語としての英語を再認識するためにも、もっと気軽に英語を使えるような教育をしたい。その意味でも英語圏以外での英語使用経験がある方がよい。日本人の持つ英語劣等感を取り払うのにも役に立つのではないか。」
- ・ 「英語を母(国)語とする国民以外の人々と交流するのも、様々な英語に接するという意味で必要だと思う。」
- ・ 「英語を学んでいると、つい英・米・加・豪等に目を向けがちである。国際語である英語を通じ、アジア近隣諸国で研修することにより、その人々と意志疎通がはかれることは素晴らしいと思う。」
- ・ 「英語圏以外でも何ら問題はないと思う。その理由は、英語は今や世界共通語だから。」
- ・ 「アジアの英語が独特のスタイルで発展しているので、英語教員の発想の転換になる。また英語の必要性も実感でき、刺激になると思う。」
- ・ 「英語が *lingua franca* として世界共通語になっている状況を検証する上でも、大切なことだと思う。英語圏では *lingua franca* であることを実感できない。」

- ・ 「アジア近隣で研修する方が、かえって『英語 = 英語圏の人々と話す』という思い込みがなくなるのでよいと思う。」
- ・ 「英語は国際語であり、特に中国、韓国の人々が度胸よく会話しているのを見ると、日本人気質を考慮した場合、アジアを選ぶのはよい選択だと思う。」

近隣諸国との交流・意見交換

- ・ 「アジア近隣諸国との交流で知識が増えるので、候補地として考慮に入れるのはよいと思う。」
- ・ 「アジアの人々とお互いに学び合うことは大切である。英語を通して意見交換し、文化を場名目、体験することが視野を広め、英語の価値を知ることになると思う。」
- ・ 「研修の目的によって英語圏以外の留学でも構わない。シンガポール RELC での研修に行き、アジア諸国の英語教員といっしょに研修する機会があって有意義であった。」
- ・ 「英語を母国語とする人々以外と交流するのも、様々な英語に接するという意味からも必要だと思う。」
- ・ 「Asian-English を用いて近隣諸国と親しくなっていくことは日本人にとって必然であると思うので、欧米でないアジアを研修地として選ぶことはとても意味がある。」
- ・ 「カナダでホームステイした時に会ったアジアの人々と英語でコミュニケーションをとることができた。同じアジアの人々と英語で会話することに違和感はなく、英語のおかげでコミュニケーションが可能となったため、英語を勉強していることに誇りを感じた。このような世界の流れを肌で感じることは大切だと思う。」
- ・ 「アジアの一員である日本は、英・米・豪ばかりでなく、もっと近くの国にも目を向けてよい。」

2) 「条件付き賛成」の理由

研修の開催地次第

- ・ 「香港，シンガポールは賛成。台北，韓国では英語は学べるのかどうか疑問。」
- ・ 「シンガポールと香港と台北やソウルは少し状況が違うように思う。」
- ・ 「シンガポール，フィリピンでも大学で研修するならよいと思う。」
- ・ 「低コストであれば香港，シンガポールなどはよいのではないか。」
- ・ 「シンガポール，韓国はよい。日本人はあちらの人がガンガン英語で話すのを聞くと，面食らうのではないか。英語圏に行かなくともアジアで刺激を受けた方がよい。余りきれいな英語を聞いても意味がないような気がする。」

3) 「反対」の理由

英語のモデルとしての適格性

- ・ 「アクセントの強い東南アジアの英語がモデルになれば，さらに発音矯正などに大きなエネルギーが必要となる。モデルとしては英語圏がよい。」
- ・ 「アジアの人との英語でのコミュニケーションでは，訛りが強すぎて難しいのではないか。それぞれの国の「独特な英語」があり，研修候補地としては不適當だと思う。」

【引用・参考文献】

- Cummins, J(1984) *Bilingualism and Special Education: Issues in Assessment and Pedagogy*, in 吉田他(2003) 『日本語を活かした英語授業のすすめ』東京：大修館書店
- 文部科学省（2003）『「英語が使える日本人」の育成のための英語教員研修ガイドブック』（文部科学省委嘱研究）「英語教育に関する研究グループ」報告書
- 金谷 憲編著（1995）『英語教師論』河源社
- 久村 研（2003）「英語教員の英語教授力をめぐって」（『平成14年度 現職英語教員の教育研修実態と将来像に関する総合的研究』pp.68-92）英語教員研修研究会（TERG）
- 「英語教育」（2002）「『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想」について

補遺 1 英検準 1 級分析

分析対象： 英検準 1 級試験（平成 14 年度 3 回）

	index		Token	
1000 語レベル	412	36.20	2217	66.96
2000 語レベル	198	17.40	337	10.18
3000 語レベル	178	15.64	271	8.18
4000 語レベル	100	8.79	124	3.75
5000 語レベル	54	4.75	67	2.02
6000 語レベル	41	3.60	48	1.45
7000 語レベル	25	2.20	28	0.85
8000 語レベル	38	3.34	45	1.36
9000 語レベル	24	2.11	27	0.82
10000 語レベル	20	1.76	24	0.72
10000 語以上	48	4.22	123	3.71
計	1138	100	3311	100
不規則動詞等	43		72	
固有名詞	20		40	
その他記号等	10		12	
総合計	1211		3435	

SLV では ,10000 語以上のレベルと判定されたが ,不規則変化の動詞や名詞の複数形及び類推が可能な語（語の後の数字は頻度を表す。数字がないものは 1 回）

ad artwork,2 began bought daydream,3 daydreamer done dotcom doubter ecosystem fell felt,2 firefighting fisher,4 forgave forgot had,15 held,2 hub Internet made,3 midsize non oddness purposeless reassess reenergize reschedule said schoolwork slept sold,2 struck strangeness taken,2 teeth,2 took,2 TV underachieve undersea went wore workforce,2

SLV で 10000 語レベル以上と判定された語

adjourn alleviate anteatater congest conjoin correlate czar debase deferment demoralize demotion dire divisive divulge downturn electromagnetism fantasize,5 fantasizers,10 fervent forgery,4 generational harshly hypnosis,10 hypnotherapy,4 hypnotic,2 hypnotist hypnotizability,3 hypnotizable hypnotize,6 insensible invertebrate maglev,2 massively medicinal mistreat neurological perk phobia sabbatical,10 scam seahorse,29 snout,2 sparsely spool stead underact understatement vastly

固有名詞及びそれから派生した形容詞も含む

Amanda American,2 Amy Balinese Bob California Drewe,3 Hollywood Japanese John,3

補遺 2 TOEFL 分析

分析対象： *Test Exercise Book, Test Preparation Kit Workbook*
Practice Tests Workbook Vol.1&2

	index		Token	
1000 語レベル	789	16.57	30879	64.07
2000 語レベル	680	14.28	6070	12.59
3000 語レベル	580	12.18	3692	7.66
4000 語レベル	528	11.09	2471	5.13
5000 語レベル	398	8.36	1241	2.57
6000 語レベル	314	6.60	874	1.81
7000 語レベル	251	5.27	580	1.20
8000 語レベル	224	4.70	497	1.03
9000 語レベル	168	3.53	379	0.79
10000 語レベル	142	2.98	275	0.57
10000 語以上	687	14.43	1238	2.57
計	4761	100	48196	100
不規則変化など	275		895	
固有名詞	400		1101	
その他	18		200	
総合計	5454		50392	

SLV では ,10000 語以上のレベルと判定されたが ,不規則変化の動詞や名詞の複数形及び類推が可能な語 (語の後の数字は頻度を表す。数字がないものは 1 回)

afterlife agriculturally airstream,4 amino,3 annually apelike aromatic arose,2 artwork ate,3attractiveness authorization autobiographical availability,2 awkwardly became,46 began,25 begun,2 billiard billionth bison,4 bitten blackfish blindness bloodstream,2 bluebird bought bred brilliantly,2 brought,10 brownish built,23 burnable cacao came,23 cannot,11 caught centrally cheerfully chemically,3 clung collagen,2 colorless,2 comer commercially ommonsense,2 comparably,2 conveniently,4 dachshund dealt dependable dependably directness disc DNA,4 domelike,2 done,10 drew,3 eardrum eaten,3 eaters ecosystem,2 educationally efficiently,3 essayist exam expressively expressiveness fed,6 feet,11 fell felt,4 filmmaking,3 fishlike fled footwear forgotten fought formalism,2 formalist,6 formalistic,5 formalize,2 freeman freshness fundamentally furthest gaslight gave,7 got grasslands,2 grew,7 greenish gymnastic had,114 harmfully heard,3 held,16 helium,4 histamine historically,2 homer,4 horsetail,2 hotelkeepers,2 houseplants hummingbird,19 hung icebox,2 indigo indirectly industrialization,5 insulin interestingly,2 internationally irregularly kept,6 knew,3 laid led,12 linoleum lit logically lowland,2 made,71 magnesium malaria

mathematically,2 meant,4 measurable,2 meltwater met,5 midair,3 midcentury,2 mime monsoon motorize,2 mountainous,2 multi multibillion multicellular multicolor multilevel multimillion multistory nectar needful needlessly negatively newborn newswriting noncollagen,2 noncommercial nonexistent nonprofit nontraditional nonviolent offence oilcloth oneness operetta orchid,3 overheat overseen oversize oystercatchers,2 packers penicillin,2 photo,2 photographable portraitist postmaster,2 powerfully,4 ppm,3 ran,2 rang,3 reabsorb,2 readjust,2 realistically reclineredwood reexamine reflex reliably relocate rename replant responsively rhythmical richness risen romanticism roost,13 routinely,2 said,5 sang,2 scientifically scuba,3 seabed seawater,2 seen,13 semilegal sent shockingly shorebird,2 shown,4 sideline signer significantly,3 silverly skillfully slenderness silverware slowness smoothly snowshoe sold,4 soprano,4 sought,6 southerner spectacularly snowfall,9 spent,2 spiderweb,3 spokeswoman spontaneously,2 spun stood,4 storeroom stylishly stylize,3 systematically systematize subclasses subfreezing successfully,2 sunlit sunspot,5 supercool swam synchronize taken,14 taught,5 teeth,4 telephoto,4 threeness told took,13 tore torn traditionally,2 tremendously twoness tying,2 unappealing unattractive unconsciously undergrowth understandably understood,8 unguard uniquely uniqueness unplanned unpublish unquestioningly unreachable unread unrecognizable unrestricted,2 untreated unusable watcher whitewood wingless woodworkers wristwatch

SLV で 10000 語レベル以上と判定された語

abolitionism abrasion acronym acupuncture adaption admonition adobe,6 adversely,2 aerodynamics aeronautics aesthetically,2 ague algae alignment alkaloids amphibian,2 amplification,4 anatomical anesthesia angstrom,2 animism anis anomaly,2 antelope anthropological antimony apex appropriately archaeological,5 arid artistically artistry aspen,4 assortment,2 asteroid asthenosphere,3 astute attache,2 attire,2 auditory auger,3 austerity avid,2 avocational balmy barbed,11 barbs,4 basal bas-relief beriberi biochemists biogeochemical biotechnician bluntly boggy boomtown borne brackish brine briskness bromyrite bullion burgeon burghers,2 burrow,2 calcite calibration camphene,7 cannibalism caribou,4 carnivorous catlinite caucus,4 celluloid chaotically characteristically chivalry,2 cholera,3 chronological circumpolar,4 circumscribe cirque,3 cirques,2 citrus coalescence,2 coenzymes cohesive collectible,2 colossus communally complacence concertina,2 concertos condor,3 confederacy confederate,2 confederation conifer,3 coniferous conjectural,2 conservatism conservatively consistently conurbation conventionally,8 convivial copiously copiousness coppersmith,6 cornea corolla,2 correlative correspondingly,2 corrosion,2 counterfeit cowbirds,2 craftspeople crate creepers crimp crisscross,2 crossbill,19 crystallize cubism cumbersome,2 curricula cystic,2 daguerreotype,2 dangerously daunt deciduous deferential deformity deft,2 dehydration demobilize densely,3 deplete dermis detectable,3 devastation diagonally diction diffusion dilution dimensional,2 dimly dimness diphtheria,2 discordant discussable disseminate dissimilar distal distend distinctively,2 duff dodger,2 dogsled domesticate,2 dramatically,2 drastically dripstone droplet,14 duct dulotic,3 dune,2

durability ecclesiastical,3 educable efface,2 elector electromagnetic elevation elliptical,7
ellipticals,2 embellish embolism,2 emboss enactment,2 entanglements entombed,2
enviously epidermis equitable erosional escutcheon ethically ethnographers ethnographic
ethnohistorian etude evaluative evaporation excavate,5 excavation,3 exhale,2 explosively
exterminate facilitation falsely fang farce,2 fathom,2 fauna fern,7 fibrosis,2 fibrous filament
financier,2 finch,2 flattish fleshy flexor flier floodplains flora floral fluctuation,4 forage,4
ford forecaster foreshadow,3 fossilization,4 fossilize,2 foundry framer,2 freestanding
freighters,2 frenetic frigid fronds,2 fumigate functionalism funnel galvanize garrison,2
gaseous gazette gemstone genera generalist,2 genesis genetically genus,9 geographer
geographic,2 geologic geologist,8 gesso,2 glacial,2 glaciation goshawk graphite
gravitational,7guise gyrations halftone hangar herbivore herculean hexagon hexagonal,2
heyday hippopotamus histology hominids,2 horde horticulturists humus hydroxyapatite,3
hypothetical igloos,2 ignite,3 illuminant imagist,2 imitators impart impede impenetrable
impersonate impersonation importers inanimate,2 incapacitate incisive incoherence
incomprehensibly incongruous incorporation,2 incriminate,2 incubate inexorable inexorably
inflow infrare,2 infusion ingeniously ingest ingot,2 innovative inscribe,2 insightful
instinctively instrumentation insulation,2 integer interpretive interstellar,3 interstitial
intimately intoxication irreverence irreverent jag jay jersey jetty joiners,4 joinery
juxtaposition kennel,2 kero kerosene,8 kestrel,14 kinglets,2 kiva,2 kymographs lacunae
laden lagoon landform,3 landholder landmass lard,2 larvae larval lateral,3 laterally,2 lava
leukemia limner,2 linseed lithosphere,3 lithospheric,4 loathsome lobe locomotion longus
lordly lubricant luster,2 lyricist mache maize,2 malfunction,2 mallet,4 andible,2 manioc
markedly marrow,2 martin,3 maser,5 masthead matrilinearl mead,2 mechanization
mechanize medicinal megafossil,5 megalopolis mercantile metabolism metamorphosis meteor
meticulously microbe,8 microfossils,2 microorganism microscopically microscopy,2
millennia,2 miller mineralization,6 mineralize minuscule,3 mirage miscellaneous misled
moat mobilization,2 modicum molybdenum monochromatic monoxide,2 moraines,3 moralize
morgue morris mortise,6 mural,2 muskeg,2 muskrat narcissus narcosis,2 narrate neap,3
negate neoclassical,2 neurobiologists nimbus,3 nitrogen,20 nonconformist nontoxic nostril
notating notoriously noxious,2 nuclei,3 nucleic numerical,7 nutritional,4 nutritionally
nutritionists,2 objectify occupancy ode opaque,3 opposable optimum orangutan orbital
orchestrate orchestration ordinally organically,3 ornamentation ornithischians ornithology
oscillation,2 outdated,2 outermost,2 outlying overabundance overembellishment overland
oversecretion oxide,2 painstakingly paleontologists,3 palmer pancreas panhandle panoramic
parasitic parasitism pecan peddler pellagra,2 percolate periodically perishable,4
permanently,5 petrification phosphor physiological physiology pigment pinna piping
pitchlike platitude platitudinous plentifully pneumonia polarity politically pollical pollicis
pollination polyergus,18 polyester polynucleate ponderosa pore portability portraiture
postdate postglacial practicality precipitation,5 predatory,3 predictability preeminent
preferably preindustrial,2 prepay preponderance prerequisite,2 preservative pressurize

primate,2 procedural,4 prodigy prolific,5 prolifically pronghorn proportionally proprietor propulsion protectionist proton protrude,2 psychoanalysis psychobiology ptarmigan,2 pueblo,10 pungent pupae,3 pupal purification,3 quasar,2 quince raccoon radically,2 ranchers recombinant recrystallize reinterpretation renovation respiratory retina,2 retool rhinoceros rickets rigidly robustus,14 roger rudiment rue rupture,2 rustproof ruthlessly sanctimonious sanitation,2 sapphire satiric,7 satirist scams scavengers scour scourge scrupulously sculptural,6 scurvy seclude sequoia sedentary sediment,15 sedimentary,2 seismic seismograph seismologist seismology,4 selectivity semiarid serrate shading shale,3 shapers shipwright sidereal sierra,2 sill silversmith,10 sinuouslyizable,2 skeletal smiths,2 soapberry sociably sociopolitical sodium solder,2 solidify solidity sorghum sparsely specialization speciation spherical spheroidal pineless spoilage,2 spongy stagecoach,5 staid stashed statehood statistician stickleback stiletto stimuli stockholder strata subsist subspecies,3 subsurface,2 subterranean subtraction suffrage sumptuous,2 supercontinent,3 supplant,2 surrealism swampy,3 syndication tachinid taiga,4 tallow tally,3 talon teak tectonic,5 tempera,3 tenement,3 tenet tenon,5 tensile,2 tern terrain,6 terrestrial,10 terrestrialization thematic theorize thermodynamics thermonuclear thousandfold,2 thrifty,2 tinsplate tipis,2 toboggan topography torque,3 transitory translucent,2 trapper,2 treason tuberculosis,2 tun,2 tundra,7 turbine turnpike,4 turquoise,2 turret unaltered uncharted uncontested undergone undertaken underworld undistorted undulate unexplored unfertilized unincorporated,2 uninhabited unmanipulated unobstructed unpredictably unpromising unravel,2 unsubstantiated,2 untamed untrappable unverified urbanism urbanize vagueness vigorously volcanism wavelength,6 waxy wearability wetland woodcarving wove,2 woven

固有名詞及びそれから派生した形容詞も含む

Abraham,2 Addams Africa,5 African, 3 Alabama Alaska,9 Alaskan Albert Alberta,3 Aldous Algonkian Alice Allan Amazon Amelia America,32 American,85 Anais Anasazi,18 Andrew Andromeda,2 Andy Angelou Ann,2 Anne Ansonia,2 Antarctica,3 Anthony Appert Arizona,2 Armony Armstrong,5 Arthur,2 Asia,2 Atlantic,3 Australia Australopithecus,14 Bacall Baffin Baldwin Baltic Baltimore,10 Barbara,2 Barnum Benjamin,2 Bennett,2 Benton Bering Betsy Beverly Bogart Borden Boston,4 Brent Britain,2 British,4 Broadway Bronx,3 Brooklyn,4 Bryn,2 Buena Burroughs Busch Butte Caldecott California,15 Cambrian Canada,24 Canadian,10 Carboniferous Carl Carlisle,2 Carnegie Carrie,2 Carson,2 Cassatt Catt Celsius,4 Cervantes Chapman Charles,5 Charleston Cheyenne,2 Chicago,7 China Chippendale Chippewa Chisholm Chisos Chomsky Christine Chugach Clendenin Coleman Colorado Columbia,7 Columbus Connecticut,3 Cordilleran,2 Dakota,3 Dallas David Davis,6 Delaware Denishawn Denver,3 Detroit Devonian,2 Dickinson,3 Dicks Dix Dorothea DSDP,3 Duncan Dutch,3 Earhart Ecole des Beaux Arts Edgar Edison Edith Edna Egyptians Einstein Eleanor Elias Elizabeth,2 Elk Ellis Ellsworth Emily,3 Emma,2 England,11 English,12 Erie ESP Eudora,4 Europe,11 European,14 Evert Florida,5 Formica,21 France,2 Franklin,4

French Gail George,2 Georgia Gershwin Gesner,4 Gilbert Glomar,6 Goddard,10 Goldman Gondwanaland,2 Gordon,3 Gothic Gould,2 Graham Grainy Greece Greek Greeley,3 Greenland,3 Halley Hammerstein Hancock Hawaii,2 Hawaiian,4 Hawthorne Hearst,8 Henry,3 Hensen Herman Hohokam Homoerectus,3 Homohabilis,6 Hopi,9 Horace,2 Hubble Hudson Humphrey Hurd-Mead Huxley Hypoglycemia Icefield Illinois,9 Indian,13 Indiana,2 Inuit,2 Isadora Jackie Jackson Jane Jedediah Jeff Jefferson,3 Jessamyn John,4 Johnson,5 Joseph,2 Jurassic Kalama Kalamazoo Kanawha Kansas Kate Katherine,3 Katzenjammer Keeffe Keillor Kentucky,2 Kingston Kirkwood,2 Laramie,2 Larkin Laurasia,2 Lauren Laurent,6 Lazarus Lew Archer Lewis,2 Lil Lincoln Lloyd,3 London Longfellow Los Angeles,3 Louis,4 Luther,3 Macdonald Machias Madlyn Mae Mahalia Maine Maline Margaret,2 Marianne,4 Marsalis Martha Mary,10 Maryland,3 Massachusetts,4 Matthew Mawr,2 Max,12 Maya McClintock McCullers Mealii Mellon Melville Merton Mexico,3 Michigan,2 Millay Minnesota Minoru Mississippi,6 Missouri,5 Mojave Montana Moore,10 Moran Moritz Mumford NASA,2 Nathaniel Navajo Nebraska Nellie Nevada,3 New Brunswick New England,2 New foundland,7 New Orleans,3 Neolithic Newton,4 NewYork,6 Nicolas Nin Noam Nobel,4 North America Nova Scotia Ohio,4 Oklahoma Omaha Oregon,2 Oscar Outcault,6 Pacific,18 Paley Pangaea,4 Papier Paris,5 Parisian Paul Pawnee,2 Pennsylvania,4 Pentland Perry Philadelphia,7 Phillips Pleistocene Plymouth Poe Polynesians Portland pre Columbian Priestess,2 Pulitzer,3 Quaker Quebec,2 Quixote,2 Rachel Racine Randolph,2 Reno Rhode Richard,5 Richter Robert,5 Robinson Rodgers Roman,2 Rome Roosevelt,3 Rosalyn Rosamond Ross,3 Rudolph Rutherford Sacramento,2 San Diego SanFrancisco,2 Sangster Santee Sarah Schawlow,3 Shirley Shoshone,3 Siberia,3 Silurian,2 Sioux,3 Smith SMSA,6 Spaniard Spanish,7 Steinbeck Stephen St Louis Stuyvesant,6 Subarctic,4 Susan Swartkrans,3 Talc Tayloe Texas,4 Thomas,4 Thoreau Thornton Tim Tom Towne Tribune,2 Trilobites Utah Ute,3 Vaughan Vermont Vincent Virginia,5 Virginians,2 Virgo,2 Wabash Wadsworth Warhol Weems Weldon Wellesley Welty,4 Wendat Wharton Wilhelm William,5 Wilson Winslow,4 Winterthur,15 Wisconsin Woodrow Woolwich Wrangell Wright,10 Wyoming,3 Yalow Yamasaki Yellowstone Yerba Zorach,2 Zuni,7

補遺 3 TOEIC 分析

分析対象：TOEIC 公式ガイド&問題集 vol.2 pp.150-177

	index		Token	
1000 語レベル	458	36.09	2730	66.50
2000 語レベル	234	18.44	480	11.69
3000 語レベル	184	14.50	375	9.14
4000 語レベル	116	9.14	171	4.17
5000 語レベル	88	6.93	112	2.73
6000 語レベル	44	3.47	61	1.49
7000 語レベル	32	2.52	44	1.07

8000 語レベル	34	2.68	42	1.02
9000 語レベル	14	1.10	16	0.39
10000 語レベル	14	1.10	16	0.39
10000 語以上	51	4.02	58	1.41
不規則動詞等	1269	100	4105	100
計	34		43	
固有名詞	69		91	
その他記号等	16		40	
総合計	1388		4279	

SLV では、10000 語以上のレベルと判定されたが、不規則変化の動詞や名詞の複数形及び類推が可能な語（語の後の数字は頻度を表す。数字がないものは 1 回）

annually,2 became begun bookkeeper breakable brought built closedown cloudiness creatively done,2 forgot gave goer had,2 held,2 healthily healthiness importers led,2 made,3 photo ran rainstorm rundown said sent shown,2 significantly slowdown took,2 underpaid went workload

SLV で 10000 語レベル以上と判定された語

abate abdicate abduct appeasement apportionment appraisal appropriately aptly,2 arbiter astrology availability,2 brokerage commemorative comptroller conclusively contingent countersignatures customize elevation entrees expiration flurry garner gearshift geographic herein,2 implementation incisive inflatable martin obtainable occupancy overbear payroll plumbing premeditate procrastinate productively proliferate refinance refundable reimburse,2 reimbursement,2 typesetter undetect,4

固有名詞及びそれから派生した形容詞も含む

Africa,2 America,2 American,2 Asia Atlanta,2 Atmore Australia Berlin Bondex Boris,2 Britain,2 Canada,2 Caracas Cary,2 Charlene Choo Comex Dallas Dan Donna Dornay EDF,4 Edinburgh European,4 Farrel Georgia Gerald Giorgio Hans Harris,2 Herbert,2 Jane Jefferson,2 Jensen Jones Juanita Kawabata Kekkonen Kim Latin Le Conte Los Angeles Madeline,2 Malaysia Malaysian Manila Martha Mexico Miami,2 Midwest Ontario Ottawa Paul Richard Rothman Santini Saturn Scotland Semiannually Simon Sunaga Texas Tom Venezuela,3 Venezuelan Watanabe Waverly William Woodford New York,2

補遺 4 英検 2 級分析

分析対象： 英検 2 級試験（平成 14 年度 3 回）

	index		Token	
1000 語レベル	370	51.53	1835	72.73

2000 語レベル	163	22.70	346	13.71
3000 語レベル	87	12.12	156	6.18
4000 語レベル	51	7.10	117	4.64
5000 語レベル	20	2.79	35	1.39
6000 語レベル	12	1.67	14	0.55
7000 語レベル	4	0.56	4	0.16
8000 語レベル	4	0.56	5	0.20
9000 語レベル	2	0.28	2	0.08
10000 語レベル	1	0.14	1	0.04
10000 語以上	4	0.56	8	0.32
計	718	100	2523	100
不規則動詞等	18		36	
固有名詞	44		64	
その他記号等	6		16	
総合計	786		2639	

SLV で 10000 語レベル以上と判定された語
cavern,3 optic stalactite tuft,2 whetstone

SLV では ,10000 語以上のレベルと判定されたが ,不規則変化の動詞や名詞の複数形及び類推が可能な語 (語の後の数字は頻度を表す。数字がないものは 1 回)

ate became,2 began,4 bought built cannot,3 fed felt had,4 held kept,4 made,3 met,2 mom,2 risen said taken took,3

固有名詞及びそれから派生した形容詞も含む

Alan,3 America American Arizona,2 Australia Bob British Canada,3 Canadian Debbie English Europe European Fleming,6 France,2 French Gary Germany Greg Japan Japanese,2 Jenny Jim Joe John Kartchner,3 Konstanz,2 Mary Noah Pacific Paris Randy Samantha Sandford Scotland Scott Steve,2 Suzanne Tenen,2 Turing,3 Yamashita Yasushi New York,2 Zealand

補遺 5 英検 1 級分析

分析対象： 英検 1 級試験 (平成 14 年度 3 回)

	index		Token	
1000 語レベル	377	28.76	2528	61.92
2000 語レベル	235	17.94	492	12.05
3000 語レベル	194	14.81	360	8.82
4000 語レベル	117	8.93	176	4.31

5000 語レベル	68	5.19	84	2.06
6000 語レベル	51	3.89	85	2.08
7000 語レベル	31	2.37	33	0.81
8000 語レベル	46	3.51	58	1.42
9000 語レベル	48	3.66	68	1.67
10000 語レベル	34	2.62	50	1.22
10000 語以上	110	8.32	149	3.65
計	1311	100.00	4083	100
不規則動詞等	32		58	
固有名詞	51		98	
その他記号等	2		26	
総合計	1396		4265	

SLV では ,10000 語以上のレベルと判定されたが ,不規則変化の動詞や名詞の複数形及び類推が可能な語 (語の後の数字は頻度を表す。数字がないものは 1 回)

ate begun brought came carmaker climber done dreamlike globalization,9 had,9 hander heard interestingly Internet,3 kept led,2 made,4 redress reuse rewritten said seen sold,3 specialization told took,2 TV unexamined unfairly visualization,2 went women

SLV で 10000 語レベル以上と判定された語

abject amenable astute augment activist bashful betterment,8 blare,2 bromide,3 bulbous CFCs chimp,3 chloride coerce congruity contritely countermeasure curator cynicism Danish decipher decry dent deplete,2 depletion detractor diatribe dichotomy dire diseconomy disprove dissipation dissuade divisive effusively engender expendable extensively felicity flout fragmentation frugally geniality handedness,6 hemispheric holistic impetuously incremental indoctrinate inhale inroad insolent intoxicate invigorate ironically lefty,6 litany meagerly methyl,4 microloan miraculously mollify negatively nitrogen notoriety nullify nutgalls,2 opulent overpublicize palimpsest,10parchment,7 perfunctorily perpetrator phosphorus pistachio placate plaintive predate primate,3 proclivity profitability,2 quadruple ramification rampantly reek refrigeration renovate replete replicating requisition,2 resultant reticent rife rueful scribe serenity snide stigma tannic tenaciously tenet theorem,2 totalitarian transiently undeterred unscrupulous unwieldy unwillingness usurp versatility whiz

固有名詞及びそれから派生した形容詞も含む

Albright America,2 American,2 Archimedes,13 Athens,2 Baltimore,2 Bisk CFCs Chris Christie,3 Constantinople,6 Danish David Drexel Einstein Europe Friedman Gordon,5 Greek,9 Heiberg,2 Hopkins,3 Japanese,2 Johan,2 John Joseph Korten London Ludvig,2 Marketer,2 Mary McManus Mechaninal Metochion,2 Netz Newton Noel Oxford Paris,2

Primatologist Reviel Rosenberg Sarah Schumpeter Sepulchre Stanford Tom Tsvi Undeterred
Victorian Vivian Walters,2 William York,3

補遺 6 The Crown English Reading 分析

分析対象： The Crown English Reading

	index		Token	
1000 語レベル	516	34.06	11454	76.77
2000 語レベル	390	25.74	1770	11.86
3000 語レベル	223	14.72	857	5.74
4000 語レベル	154	10.17	413	2.77
5000 語レベル	77	5.08	152	1.02
6000 語レベル	48	3.17	95	0.64
7000 語レベル	26	1.72	46	0.31
8000 語レベル	24	1.58	40	0.27
9000 語レベル	16	1.06	34	0.23
10000 語レベル	5	0.33	9	0.06
10000 語以上	36	2.38	50	0.34
計	1515	100	14920	100
不規則動詞等	88		443	
固有名詞	189		680	
その他記号等	14		104	
総合計	1806		16147	

SLV では ,10000 語以上のレベルと判定されたが ,不規則変化の動詞や名詞の複数形及び類推が可能な語 (語の後の数字は頻度を表す。数字がないものは1回)

ad,2 arose ate backgammon became,15 began,17 blackness,5 bled blew,2 blindness blueness bought brilliantly brought,9 built,4 businessmen came,22 cannot,17 caught,3 centre CO,4 coldly coldness colorless,2 colour correctness doctorate done,5 drew,2 drove,3 efficiently email emptiness environmentally etc,2 exactness fed,3 feet fell,2 felt,10 firsthand,3 gave,8 got,12 grandmaster greenness grew,6 grey,16 greyish,3 grownups had,134 heard,8 held,5 HITECH humbleness humour,2 hung impossibly incredibly,2 integer,2 intellectually,2 Internet,6 kept knew,18 laid led,4 lent madame made,18 meant,5 met,2 mom,2 negro,2 nigger passionately PCs polo,2 postmaster,2 ppm,5 ran rang savannahs shaken shogi successively uncomplicated unpleasantness VS wrongness

SLV で 10000 語レベル以上と判定された語

afforestation alma mater anew,2 bate blest chug,6 colossus combustion concussion confidently creatively dimensional disastrously discolor ducat,5 estuary fixation foresaw,2 gigatons gratefully handbill impure infrared inwardly,2 leaden martin mould nightmarish pre Law pre Med Protestantism securely spat sucrose tic-tac-toe,2 tonne,2

固有名詞及びそれから派生した形容詞も含む（アクセント記号が付いた英語以外の単語にアクセントをつけていない）

Adele,2 Africa African,3 Afro,4 Alan,3 Alice,3 Amazonian America,8 American, Amsterdam,4 Anatoly Anne,25 Antoine de Saint-Exupery Antonio,42 Asimov,2 Auschwitz Azerbaijan Balthasar,18 Baltimore Bassanio,11 Beethoven,2 Belmont,4 Belsen Bernardo Blaise Bolger Bomba Boston,2 Brendan,2 BRIAN Britain,4 BRONTE Brooklyn,3 Cambridge Campbell Carroll Champs-Elysees Charles CHARLOTTE Chilean China,3 Chinese,2 Chipangu Copernicus Cristo Cublay Daan,9 Dalmatian Dants D'Artagnan Dodgson Du Bois,3 Dumas *pure* Dussel,6 Dutch Edith Edmond Edward,4 England,6 English,4 Englishman Ethiopia Europe,6 Exupery Eyre,4 France,2 French,3 Galileo Garry,6 Genoa,2 George,6 German,2 Germany,6 Ghana Gogh Greece,2 Greek,3 Gutenberg,6 Hamill,2 HARRISON Harvard Hawkins Henley Henry,2 Herbert Hitler Holland,3 Hyde Ingram,6 Ireland,7 Irish,2 Isaac,2 Italian Italy,2 Jackie,2 Jane,22 Japan,7 Japanese,2 Jekyll Jessica,8 Jew,8 Jewish,2 Jim Johann John,2 Jonathan,4 Joseph,2 Judaism Karpov Kasparov,15 KENNEDY Khan,3 Kimovich Korea Kraler,3 Lakeside,3 LEDERER Lewis Lockwood,2 Logistello,2 London Lorenzo,5 Louis,3 Ludwig Luther Lutwidge Mainz Malthus,7 Malthusian Manchester Manhattan Marco,2 Margot,8 Marshall Mary,3 Maryland Maxwell,2 Michael Miep,24 Minnesota Monte Murakami,2 Musketeers Nazis,2 Netherlands,3 Newtonian Nicholas O'Higgins Othello,2 Otto Oxford Pantone Paris Pascal Paul Pete,2 Piedmont,2 Poland Portia,10 Raymond Reti Richard,3 Robert,2 Robinson,2 Rochester,8 Ron Russia Scandinavia Seattle,2 Shakespeare,6 Shylock,56 Simon Bolivar Simon Snark Socrates,2 Stevenson Takeshi Thornfield,7 Thurgood Tubal Turing,16 USSR,2 Venetian,2 Venice,22 Virginia William,4 Wilson,8 Wittgenstein,2 Yale,4

補遺 7 担当別授業時英語使用状況（自己申告）

	教室英語	スモールトーク	復習	導入	教授	練習	まとめ	合計
中1	3.2	2.9	1.9	3.1	1.8	2.9	2.3	18.0
中2	3.2	3.0	2.1	3.4	2.1	3.0	2.0	18.8
中3	3.0	2.6	2.2	3.3	1.9	2.8	1.7	17.5
英	2.2	1.7	1.8	2.0	1.5	1.5	1.4	12.2
英	1.9	1.4	1.8	2.3	1.8	1.5	1.6	12.2
OC	2.8	2.2	1.6	2.2	1.5	2.2	1.7	14.1
R	1.8	1.2	1.4	1.6	1.6	1.0	1.3	9.7
W	1.6	1.2	1.4	1.9	1.5	1.4	1.3	10.3

補遺 8 中学校の教師が良く行う英語使用

活動内容	中 1	中 2	中 3
授業開始のあいさつをする	3.93	3.92	3.78
自分や黒板などを注目させる	3.80	3.85	3.67
生徒の活動や行為をほめる	3.73	3.69	3.44
生徒に感謝する	3.67	3.38	3.33
授業の初に曜日等を確認する	3.60	3.31	2.56
パターンプラクティスをする	3.47	3.62	3.22
生徒を席につかせる	3.40	3.85	3.44
生徒に大きな声を求める	3.40	3.23	3.00
天候について聞く	3.33	3.69	2.67
新出語の導入する	3.33	3.46	3.56
発音の指導をする	3.33	3.69	3.78
静かにさせる注意をする	3.33	3.62	3.33
コミュニカティブ活動をする	3.13	3.54	3.33
指名して活動をさせる	3.07	3.23	3.11
重要構文の導入する	3.07	3.31	3.11
本文を導入する	3.00	3.38	3.33

補遺 9 高校教員があまり英語を使用しない場面

活動内容	英	英	読本	作文	OC
和文英訳を指導する	1.29	1.60	1.20	1.40	1.31
次の授業の指示をする	1.50	1.47	1.20	1.20	1.50
テストの解説をする	1.21	1.47	1.40	1.30	1.25
欠席[遅刻]理由を聞く	1.21	1.47	1.60	1.20	1.63
行為をしかったり罰をあたえる	1.36	1.53	1.40	1.20	1.31
授業をまとめる	1.36	1.67	1.40	1.40	1.81
宿題を確認する	1.93	1.53	1.20	1.20	1.63
文法を指導する	1.36	1.47	1.20	2.10	1.88
生徒の誤りを訂正する	1.43	1.47	1.80	1.50	2.00
日常的な話題を提供する	2.14	1.53	1.40	1.40	2.31
出欠・遅刻の確認する	2.07	1.67	1.60	1.30	2.63

補遺 10 日本で受験可能な「英語能力総合試験」比較対照表

(添付「英語能力試験」のファイル1を参照)

補遺 11 日本で受験可能な「英語口頭能力試験」比較対照表

(添付「英語能力試験」のファイル2を参照)